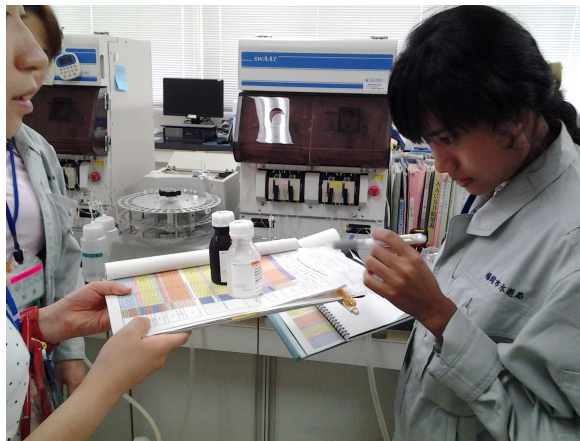


平成 27 年度（2015 年度）自治体職員協力交流事業
協力交流研修員 研修報告書

2015 Local Government Officials Training Program in Japan
Trainee Reports



一般財団法人 自治体国際化協会

Council of Local Authorities for International Relations

は じ め に

総務省及び（一財）自治体国際化協会では海外の自治体等の職員を受け入れることについて、財政面や受入実務面での支援を行うための「自治体職員協力交流事業」を展開しています。

平成 8 年度より創設された自治体職員協力交流事業も 20 年目を迎え、37 の国と地域から 1,087 名が本事業に研修員として参加されました。平成 27 年度（2015 年度）においては 7 カ国から 30 名の研修員が様々な分野で実り多い研修を行いました。

本事業は「ひとづくり」を通じた国際協力事業の 1 つではありますが、研修員の皆さんが日本の自治体の有するノウハウ・技術を習得され、帰国後、日本における研修の成果や経験をそれぞれの職場において大いに活かされ、また、自治体間の国際協力・交流の貴重な架け橋として活躍されていると伺っております。

そうした研修員の日本での奮闘ぶり、研修の成果を各方面の方々のご協力のもと、平成 27 年度も報告書として編集することができました。全事例でなく、国際交流や技術の習得に加えて、研修員本人のノウハウが自治体の行政施策の実施や問題の解決に貢献している事例等を中心に 8 事例を選定し、ダイジェスト版として掲載しております。

この報告書が研修員派遣国や今後研修員の受け入れを予定されている各自治体において活用していただけたら幸いです。

最後に、研修員の受け入れにご尽力されました各受入自治体及び関係機関の皆様方に対して、心よりお礼を申し上げます。

（一財）自治体国際化協会
交流支援部 経済交流課

＝平成 27（2015）年度自治体職員協力交流事業スケジュール＝

2015 年

4 月 20 日（月） 受入自治体担当者会議

東京研修

5 月 17 日（日） 協力交流研修員の来日 ルポール麹町泊
5 月 18 日（月） 開会式
オリエンテーション
講話（総務省国際室長）
受入自治体との面談 ルポール麹町泊
5 月 19 日（火） 日本語レベルチェック
都内視察：東京都庁、国会議事堂 ルポール麹町泊
5 月 20 日（水） 東京から滋賀（JIAM）へ移動

全国市町村国際文化研修所（JIAM）研修

5 月 21 日（木） 開講式
日本語研修 授業：70 分×64 コマ（6 月 17 日まで）
5 月 23 日（土） 京都市内視察（伏見稲荷、清水寺、金閣寺等）
5 月 26 日（火） 地方自治行財政講義（総務省国際室）
6 月 3 日（水） 日本伝統文化講義（裏千家談支会 北野宗道特別参事）
6 月 5 日（金） 行政課題講義（立命館アジア太平洋大学 上子秋夫副学長）
6 月 6 日（土） 滋賀県内視察（彦根城、近江日野商人館、ホームビジット等）
6 月 16 日（火） 成果発表会

6 月 18 日（木） 閉講式
日本語ステップアップ研修開始
日本語研修 授業：70 分×36 コマ（7 月 1 日まで）
7 月 2 日（木） 日本語ステップアップ研修終了

専門研修

6 月 19 日（金） 受入自治体における専門研修開始

研修員の帰国

11 月中旬～5 月にかけて順次帰国

平成27年度(2015年度) 自治体職員協力交流事業 協力交流研修員名簿

都道府県	市町村	氏名	性別	国名	所属団体	研修分野
北海道	旭川市	宋 賢静	女	大韓民国	水原市	国際交流
北海道	滝川市	エンフトゥヤ セレンゲ	女	モンゴル国	ウブルハンガイ県	農業
北海道	滝川市	ゾウンドウイ バヤルサイハン	女	モンゴル国	ウブルハンガイ県	農業
北海道	滝川市	デンベレル ビャンバドゥラム	女	モンゴル国	ウブルハンガイ県	農業
北海道	滝川市	ルハグワスレン バヤスガラン	女	モンゴル国	トゥブ県	農業
北海道	滝川市	バトスレン アマルトウブシン	男	モンゴル国	ウランバートル市	商工
北海道	滝川市	バトツェンゲル バトエルデネ	男	モンゴル国	ウランバートル市	商工
北海道	滝川市	ボヤントグトフ エルデネバヤル	男	モンゴル国	ウランバートル市	商工
北海道	滝川市	エンフジャルガル ナランバートル	男	モンゴル国	ウランバートル市	商工
北海道	滝川市	ガンボルド オドツェツェグ	女	モンゴル国	ウランバートル市	商工
北海道	滝川市	ホルドバートル ボルドバートル	男	モンゴル国	ウランバートル市	商工
岩手県		閔 菲遠	女	中華人民共和国	大連市	商工
群馬県		ダニエラ ネメン ダ シルバ	女	ブラジル連邦共和国	パソフンド市	教育
富山県		張 肖冰	男	中華人民共和国	遼寧省	保健医療
富山県		回 智光	男	中華人民共和国	遼寧省	教育
富山県		岡野 アンドレ 良法	男	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州	教育
福井県	福井市	金 静延	女	大韓民国	水原市	一般行政
山梨県		ギレルメ パグリヤラ ラジェ	男	ブラジル連邦共和国	ミナス・ジェライス州	観光
岐阜県	高山市	李 国栄	男	中華人民共和国	雲南省麗江市	保健医療
岐阜県	高山市	ロベルト オルティーズ デ オ ルー ポカンジェル	男	ペルー共和国	ウルバンバ郡	一般行政
静岡県	浜松市	張 迪	女	中華人民共和国	瀋陽市	観光
京都府		池 華波	男	中華人民共和国	陝西省	一般行政
鳥取県		崔 紅蓮	女	中華人民共和国	吉林省	商工
島根県	松江市	薛 俏宇	女	中華人民共和国	吉林省吉林市	一般行政
山口県		顧 英子	女	中華人民共和国	山東省浜州市	商工
福岡県	福岡市	カイン カイン ソー	女	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン市開発委員会	上水道
福岡県	北九州市	張 軼	男	中華人民共和国	上海市	環境
福岡県	北九州市	ウィン ツァン	男	ベトナム社会主義共和国	ハイフォン市水道公社	上水道
長崎県	長崎市	朱 敏嬌	女	中華人民共和国	広東省中山市	教育
大分県		陳 瑾	女	中華人民共和国	湖北省	観光

平成 27 年度（2015 年度）自治体職員協力交流事業（LGOTP）

報告書（ダイジェスト版）

目 次

1. 姉妹都市旭川市研修を終えて……………	宋 賢静（韓国水原市）	1
姉妹都市韓国水原市から交流公務員の宋賢静さんを受け入れて……………	（旭川市）	5
2. 自治体職員協力交流事業（LGOTP）に参加して		
……………	ダニエラ・ネメン・ダ・シルバ（ブラジルパソフンド市）	7
群馬県のブラジル人研修員受入れについて……………	（群馬県）	10
3. 忘れられない日本での生活……………	張 肖冰（中国遼寧省）	13
日本語教育を学んで……………	回 智光（中国遼寧省）	16
日本の教育を学んで……………	岡野・アンドレ・良法（ブラジルサンパウロ州）	19
平成 27 年度自治体職員協力交流事業を実施して……………	（富山県）	22
4. 学ぼう！日本の行政！……………	金 静延（韓国水原市）	25
平成 27 年度水原市派遣職員金静延氏の研修にあたって……………	（福井市）	28
5. 山梨県での研修を振り返って		
……………	ギレルメ・パグリャラ・ラジェ（ブラジルミナス・ジェライス州）	31
ミナスジェライス州との交流事業の柱として……………	（山梨県）	35
6. 松江での研修生活……………	薛 俏宇（中国吉林省吉林市）	37
協力交流研修員を受け入れて……………	（松江市）	41
7. 2015 年 LGOTP 報告書……………	朱 敏嫣（中国広東省中山市）	43
長崎市と中山市の交流促進……………	（長崎市）	46
8. 湖北省と大分県の交流促進のため……………	陳 瑾（中国湖北省）	48
大分県と中国湖北省との交流の懸け橋として……………	（大分県）	51

「姉妹都市旭川市研修を終えて」

氏 名 宋 賢 静
出身国 大韓民国
受入自治体 北海道旭川市
研修先 旭川市役所都市交流課等



1 本事業に応募した動機

水原市と姉妹都市になっている旭川市を 2008 年で初めて、1 週間行政短期研修を受けた。その時、旭川市の行政について研修を受け、また北彩都事業の見学をした。物凄い事業をしていると思うのに言葉が大体通じなくてもややもやした気持ちだった。機会があれば職員の交流を通じて旭川の行政とかの事業について研修を受けたいと思った。また、2005 年に東京旅行をきっかけに日本語勉強をしていたのでそれをもっと深く勉強したいと思って本事業に志願した。

2 研修の概要

- 1) 東京研修 (CLAIR) : 2015. 05. 17～05. 19
 - ア) 日本自治体職員協力交流事業の紹介と総務省など政府機関視察
- 2) 日本語の専門教育 (JIAM) : 2015. 05. 20～06. 17.
 - ア) 日本語教育
 - イ) 日本伝統文化体験や生活文化の紹介、職場生活エチケットなど
 - ウ) 京都 (文化史的、防災センター) 及び大津市 (ホーム・ファミリー、主要施設) 文化探訪
- 3) 旭川市研修
 - ア) 旭川市行政研修: 2015. 06. 19～2016. 05. 16
 - イ) 研修内容は以下の通りである。

①近文清掃工場:

1996 年に約 107 億円の予算で建てられて旭川市で発生する個人及び法人その他の団体の情報に係わる文書などのゴミを搬入して燃やせるゴミとかりサイクルゴミは減量化している。こうして得た熱や電気はふれあいセンターやリサイクルプラザに供給するし電力会社に売る。またロードヒーティングをして積もった雪を溶かすことやふれあいセンターでは温水プールとして使用している。

2014 年ゴミの搬入処理量は全体 88, 200t で 77, 833t を処理して 88. 2%を焼却完了



写真 1>清掃工場の中央監視システム

して残渣は 7,750t で 10.3%を処理した。焼却してから生産された電気は電力会社に売って年間約 92,598 千円の利益を納める。

②総合防災センター：

2008 年にオープンして 119 の受付、避難所の運営、支援者の支援、給水、給油、発電の運営をしている。

災害及び普段の時は色々な状況に対応する機能を持っている施設だ。災害の時には旭川市の消防機関の活動や情報の拠点として活動部隊への指示や命令の伝達、全国防災関連の情報連隊、各種情報の収集分析などの危機管理の緊急対応を担当している。

また、普段は体育館と資機材を保管する倉庫で災害の時には体育館は避難所として運営し地下の倉庫は給水給油の施設で使用する。

③旭川市立病院研修：

旭川の市立病院は北海道の基幹病院で 1930 年に貧困者医療機関としてオープンして 1937 年に市立旭川病院と改称した。病院の敷地面積は 37,166 m²、建床面積は 13,212 m²で診療科目は外科、内科など 25 科目を診療している。

病院の病床の総数 502 床で一般病床 396 個、精神病床 100 個、感染病病床は 6 個がある。

地域の住民が安心して医療を受けられるよう高度専用医療の提供や各種認定施設の認定をされるなど地域の医療の向上に努めている。



写真 2>旭川市立病院

④旭川農業センター（花菜里ランド）：

農業の振興のため各種農業支援機能を集積すると共に地域の農業者の必要に応じて総合的な農業支援施設として 1997 年にオープンした。野菜・花・木などの生産技術の試験研究や実証展示、農家の方を対象とした土壌の分析や診断、残留農薬の実証試験、花ユリ産地の形成を図るための栽培技術の開発、農業者に向けた研修会の開催など各種農業支援の機能を集積している。さらに、都市と農村の交流機能として、体験農園や野菜とか果物の農産加工室の貸し出し、各種会議ができるように会議室の貸し出し、畳部屋の貸し出し、農業公園など農業とふれあう場の提供もしている。



写真 3>花菜里ランドの施設案内図

⑤旭川空港：

北海道の第 2 の都市、旭川を中心部の南東から約 16km の校外にある丘陵地帯に位置する。旭川を中心にして北海道の経済、文化、観光の拠点である。空

港の東側には日本最大の大雪山連峰と十勝岳連峰の山がある。1966年6月に1,200mの滑走路で第3種空港として開始。1980年第2種空港に昇格。

以降2回の滑走路延長をして現在の滑走路は2,500m×60mの長さになった。旭川市の空港は新千歳空港のように欠航される時はほとんどない。冬にも就航率が高く2008年から2012年の5年間、降雪による欠航が5便しかなかった。しかし年間約15億円を超える除雪費がほとんど空港収支に赤字となって財務面では負担を抱えている。

最近、動物の本来の姿を見せる所で知られる旭山動物園と全国的に人気がある旭川ラーメン、スキー場など旭川での観光資源や都市間アクセスが便利で1996年100万人を突破し始め毎年乗客が増えている。

⑥旭川東部まちづくりセンター：

東部まちづくりセンターは地域の色々な活動を補助するため各種証明書の発行などのサービスや、高齢者の相談窓口とか地域の防災防火のため2015年4月にオープンした。東部まちづくりセンター、豊岡地域包括支援センター、南消防署豊岡出張所がある複合的施設で非常時の避難所として地域の防災拠点機能がある。

ここで目立つ設備は市民の利便性が充実に地域の防災力がしている向上についてである。例えば、障害者用駐車所にロードヒーティングが設置されており、消防用の車庫には床暖房が設置された。またソーラーシステムと地熱を利用して夏季のとき冷房機とか冬季の時暖房機に利用するためエコシステムを所有する。



写真 4>東部地域まちづくりセンター

⑦日本の国内研修：

国際、観光について関心があったので国際都市東京と鬼怒川観光協会に行ってきた。

東京にあるOECD東京センターはOECDに対する理解をアジア・太平洋地域で促進するために1973年に設立されました。講演会、政策討論会、記者会見、日本語ウェブサイト、翻訳出版物を通じて、OECDの活動・研究成果の広報とともに国内各層との「知的共同作業」を行っています。

OECD東京センターは東京、ベルリン、ワシントン、メキシコで4カ所で設置された。1973年当時アジアでセンターを設置しようとしたとき加入国が日本だけであったため日本に設置した。

また、鬼怒川温泉観光協会は訪問する方に温泉、ホテル、バスなど色んな観光情報を案内している。この温泉は江戸時代に発見され、当時は日光詣の僧侶や大名のみが入ることを許されたという由緒正しき温泉だ。明治以降に一般開

放されてからは多くの観光客が訪れ、鬼怒川溪谷沿いには旅館やホテルが建ち並ぶ関東有数の大型温泉地として発展した。

この温泉は時期別に訪問客の数の変化が多く4月、7月、9月、12月に訪問客が多い。

3 帰国後の展望

旭川に来た頃、旭川市民向けに一週間に一回韓国語講座があるのを見て印象的だった。また、中国語、ロシア語など講座とボランティアの日本語を教える会があったのを見て驚いた。また国際交流音楽会、姉妹都市の交流の活性化、各国の料理教室、ランタン作り、韓国語の絵本の読みきかせなど講座及び交流活動に接しながら旭川市は国際交流に対して努めているのを分かった。そのため去年は国際交流の総務大臣の賞をもらうなど国際交流が充実している都市だ。

水原市も色んな国際交流をしているが2016年は‘水原市華城訪問の年’を掲げて観光や国際交流に努め音楽、写真、フォーラムなど国際交流をする計画があるのでわたしは帰ったら旭川市で見て、聞いて、学んだことを生かして水原市の国際交流に色々とお役にたちたい。

姉妹都市韓国水原市から交流公務員の 宋賢静さんを受け入れて

自治体名	北海道旭川市
研修員名	宋賢静
出身国	大韓民国
研修分野	行政
研修期間	10 か月
主な研修先	総合政策部都市交流課ほか

1. 背景・目的

旭川市は、平成元年に韓国水原（スウォン）市と姉妹都市を提携し、代表団の相互派遣をはじめ、行政、スポーツ、文化、教育等様々な分野で活発な交流を継続し、昨年は提携25周年記念事業を水原市で開催したところである。

両市の職員相互派遣研修は、平成6年度から15年度までを実施後、一時中断を経て、平成24年度に再開、平成25年度からは両市の友好交流や地域活性化の一層の促進を図り、両市の交流の架け橋となる人材を育成することを目的に自治体職員協力交流事業を活用しているところである。

今年度は、水原市から宋賢静さんを受け入れて研修事業を実施した。

2. 研修概要

韓国文化紹介・・・市内小中学校へ訪問し国際理解教室，韓国料理教室，韓国文化体験（ランタンづくり）など

施設見学・・・ゴミ処理場，公園，流雪溝，水道局，農業センター，スポーツ施設など

各種見学・・・高齢者文化祭の見学，外来種駆除体験見学，交通事故ダミー見学，博物館など

各種説明・・・まちづくりセンター（市民課関係業務），雇用創出関係業務など

3. 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

旭川市にきた当初より日本語能力試験2級を持っていたため、生活や周りの方々とのコミュニケーションに関しての問題や不安もそれほどなく、とても積極的に会話をしていた。ただし、難しい研修の内容を日本語のみで聞き続けるのは大変な部分もあったため、旭川市にきた当初はできるだけわかりやすいものを行い、日本語の能力の上達とともに難しい内容のものを行うことを工夫するなど心がけた。例えば、初めの頃は、ゴミ処理施設の見学や、外来種と一緒に駆除する体験研修、交通事故のダミー実験の見学など言葉で理解するものというよりは、視覚的に理解できるものや実際に体験することで理解できる研修を中心に行った。

次に心がけたことは、旭川という街の特色がわかるような研修を心がけた。北国である旭川には主要道路に流雪溝があるなど雪国ならではのまちづくりを行って

いる。研修員が働いている韓国水原市にも雪は降るものの旭川より雪が多く降らず、雪が降ると街中が渋滞になるといったことは日常茶飯事であるといった状況でとても雪に強い街とはいえない。流雪溝の見学などではなぜ旭川のような雪国でも市民は快適に生活ができるかを知ってもらうきっかけになった。

また、アイヌ民族の勉強もしてもらうため博物館にも見学した。こちらは内容が難しいと思い日本語能力試験 1 級取得後に見学したが、本人の努力の甲斐もあり博物館の方の話を通訳なしで聞き取ることもでき、旭川に対する理解がより深まったと感じている。

最後に工夫したこととしては、旭川の市民の方との交流の機会を多くもつことを心がけた。例えば、旭川市内の小中学校に訪問して、韓国の文化の紹介を行った。特に小学生と一緒に韓国の遊びをした時はとてもすごい盛り上がりで児童の皆様も楽しく外国の文化を勉強することができたと確信している。他にも宋さんが主に所属していた旭川市都市交流課は旭川市国際交流センター内にあるため関連団体と一緒に行事を行うことも多かった。そのため、韓国の料理教室では韓国料理を教えたり、韓国の絵本を子ども達に読み聞かせたり、韓国のランタン（日本の提灯のようなもの）の作成を指導するなど、韓国の文化を旭川市民の方々に伝えてくれた。このように、文化を伝えることは、本人にとっても良い経験になるだけでなく、旭川の市民にとっても外国に行かなくても国際理解ができるととても良い機会であった。このような機会を多くすることで、交流公務員に旭川市の国際化に貢献してもらい、かつ、旭川市民との交流を多くとれるよう工夫、実行した。



小学生に韓国文化を伝える宋さん

4. 成果・課題

研修員は巡回研修を受けている時には必ずといって良いほど、水原市の行政と旭川市の行政の違いを話していた。これは、常に水原市（韓国）と旭川市（日本）を比較しながら帰国後の業務に反映したいと考えていたため、帰国後には研修での経験を必ず生かしてくれるものであると確信している。

特に旭川に来る前には雇用創出関係の業務に就いていたこともあり、雇用創出業務について聞いている時には発見が多かったようである。日本のシステムが水原市（韓国）より優れている部分がいくつもあり、水原市（韓国）もこのようになれば良いのにと話していたことが印象的であった。

また、前述のとおり研修員には旭川の国際化にも寄与していただき、とても感謝している。本人としては、帰国後は特に国際交流の分野で活躍したいと考えているようであった。担当者としても帰国後には1年間の研修の中での経験を生かしていただき、これからも両市の交流の架け橋としてますます活躍してほしいと願っている。

自治体職員協力交流事業（LGOTP）に 参加して



氏 名： ダニエラ・ネメン・ダ・シルバ

出身国： ブラジル

受入自治体： 群馬県

研修先： 群馬県人権男女・多文化共生課

1 本事業に応募した動機

日本で心理学がどう機能しているか、または日本のメンタルヘルスの実態について興味を持ち応募しました。その他に、日本の文化について学びたいと思いました。



日本語を学習した JIAM

2 研修の概要（何を学び、そして何を身に付けたか）

研修期間（7ヶ月間）に日本語を学習することができ、日本人の習慣を知るとともに日本の文化について勉強することができました。

専門分野のトレーニングについては、児童やティンエイジャーたちにカウンセリングを行いました。その他に、日本での心理学専門職員がどういった取り組みを行っているかを知るために、研修プログラムの一環として心理職員が活躍している機関などを訪問すると同時に多文化共生について学ぶことができました。



生徒のカウンセリングを行った旭中学校

3 帰国後の展望（本事業で得た成果を帰国後、どのように活かしたいか）

日本で習得した内容を仕事で活かしたいと思います。多文化共生について、及び新しい技術を学び、帰国後その内容を仕事に導入したいと思います。その他に、自己啓発に役にたった経験を経験することができて良かったと思います。日本で得た自己の経験や専門職分野の知識を全て私と共にブラジルへ持って帰りたいと思います。



心理職員が活躍している群馬県こころの健康センターを訪問

群馬県のブラジル人研修員受入れについて

自治体名	群馬県
研修員名	ダニエラ・ネメン・ダ・シルバ
出身国	ブラジル連邦共和国
研修分野	心理
研修期間	7か月
主な研修先	人権男女・多文化共生課

1 背景・目的

本県では、多文化共生社会による豊かな地域づくりを進めるため、「群馬県多文化共生推進指針」を策定し、本指針では「外国人県民の自立と社会参画を進めるための環境を整備する」が施策の方向性の1つとして位置づけられている。

この施策の方向性に基づき、本県では平成23年度から自治体職員協力交流事業により、外国から心理学の知見を有する自治体職員を研修員として招聘しており、平成27年度はブラジル連邦共和国からダニエラ研修員を招聘した。

本事業は、外国籍児童生徒やその保護者が外国籍児童生徒の抱える心理的な不安・課題について、心理学の知見を有する研修員に母国語で相談することを可能にし、外国籍児童生徒の健全な成長をもたらす効果を期待して実施するものである。

2 研修の概要（研修員の来県以降）

(1) オリエンテーション

県内の外国人住民の置かれた状況や、日本での生活について簡単なレクチャーを行った。

(2) 公立小中学校、外国人学校、心理関係機関視察・意見交換

公立小中学校、外国人学校を訪問し、学校内での外国籍児童生徒の状況を把握するとともに、教職員等と意見交換を行った。

また、心理専門職員が活躍している本県の施設（児童相談所・精神医療センター等）を訪問し、各施設の概要を把握するとともに、心理専門職員の役割、他職種との連携等について心理専門職員と意見交換を行った。

(3) 外国籍児童生徒に対する心理カウンセリング

各学校の外国籍児童生徒の状況等をふまえ、小学校5校（伊勢崎市内1校・太田市内3校・大泉町内1校）、太田市内の中学校2校、外国人学校1校を選定し、各学校を週1回訪問して心理カウンセリングを行った。カウンセリングは7月に開始し、ダニエラ研修員が帰国する直前の11月末まで継続した。

(4) 外国人保護者向けワークショップ

8月に太田市内で、外国籍児童生徒の保護者や支援者（バイリンガル教員、日本語指導助手等）を集めたワークショップを行った。

(5) 活動報告会

ダニエラ研修員の研修成果を広く周知・共有するため、12月に太田市内で活動報告会を行った。



精神医療センターで描画テストを受けるダニエラ研修員（右側）

3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

(1) 工夫した点

- ・各学校の外国籍児童生徒状況に応じて実施時間を調整し、1週間あたり8校の学校でカウンセリングを実施し、学校のニーズに出来る限り対応した（昨年度は1週間あたり5校の学校でカウンセリングを実施）。
- ・ダニエラ研修員が日本食の中でこんにゃくに興味を持っていたため、県内のこんにゃく工場を視察し、こんにゃく料理を体験してもらった。

(2) 苦労した点

- ・ダニエラ研修員が当初想定していた研修内容と、実際の研修内容が異なる部分があり、ダニエラ研修員の意向に沿うよう研修内容を調整した。
- ・ダニエラ研修員の住居と群馬県庁の距離が約40km離れており、生活状況の把握や研修員が困った際の対応が難しかった。

4 成果・課題

ダニエラ研修員が、カウンセリングによって把握した外国籍児童生徒の情報について教職員との情報共有に努めた結果、学校側から、今まで把握していなかった児童生徒の状況を知ることができた、既存のスクールカウンセラーでは対応困難だった外国籍児童生徒の心理的課題に対応できるようになり非常に助かったとの評価をいただいたことが成果である。

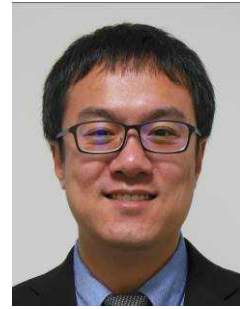
一方、研修員が帰国してしまうとカウンセリングが途絶えてしまい、次年度新たに研修員を受け入れるとしても、それまでの間空白期間が生じてしまう。また、新たな研修員がカウンセリングを行う場合、一からやり直しになってしまうケースもある。カウンセリングの継続性、一貫性が本事業の課題である。



こんにゃく料理を体験するダニエラ研修員

「忘れられない日本での生活」

氏名	張肖氷
出身国	中国
受入自治体	富山県
研修先	富山県衛生研究所



1. 来日前に期待していたこと

私は中国瀋陽から来た張肖氷です。来日前は遼寧省人民病院臨床検査科において、5年の仕事経験を持つ検査技師です。小さい頃から医療関係の仕事に就きたいと志を立て、働き続けていましたが、働く年数の増加に伴い、徐々に自分自身の知識不足と問題点に気づきました。日常の仕事の中で、他の病院の先生方にもやり方を聞いたり、資料調査したりする方法で問題解決をはかっていたのですが、時々疑問も残り、海外研修の機会を通じてさらに専門知識を深め、視野を広めたいとずっと希望していました。日本は、医療技術の進んでいる国として名高く、私は当然のところ、日本で最先端の技術を学び、自分の技師経験を豊かにし、自身の足りない部分を補いたいと思いました。そのため、今回の研修機会に期待して申請をしました。

日本に来る前に、中国で2ヵ月ほど日本語を勉強しました。しかし、初めて日本に行くわけですから、心の中で少し不安を感じました。それは、日本人とうまくコミュニケーションできるのか、十分に今回の貴重なチャンスを利用できるのか、心配だったからです。それに、初めての海外生活に自分は慣れることができるか、このような複雑な気持ちを抱きながら、来日の飛行機に乗り込みました。

2. 研修について

2015年5月16日、私はクレア主催のLGOTPプロジェクト中国グループの12名と北京で合流し、翌日の朝に全日空の飛行機で東京に向かいました。東京に到着すると、クレアは研修メンバー全員を対象に、日本語レベルを測定するための筆記及び面接試験を行い、その後、浅草寺やスカイツリーなど東京の名所まで案内してくださいました。東京で3日間を過ごした後、唐崎にあるJIAMに着き、そこでさらに全面的な日本語学習を始めました。この1ヵ月の中、クレアのスタッフたちは休み期間中にさまざまなイベントを用意して下さり、例えば京都の金閣寺、二条城、伏見稲荷、清水寺、滋賀県の彦根城、日野商人館などの見学、ホームステイや茶道体験などです。特に印象に残っているのは、京都の防災センターを見学し、地震・火災・台風などについて新しい認識ができました。1ヵ月後、私の日本語レベルの原因で、さらに2週間の延長学習が必要と残されました。全体研修期間中、私は30才の誕生日を迎えました。中国の古い言い方で、三十にして立つという言いかたがあり、この日本で迎えた誕生日を不思議に思うし、とても意義があると思います。

<専門研修>

全体研修が終わり、7月13日に富山県衛生研究所で私は本格的に専門研修を

始めました。日本語が心配で、研究所に中国語が分かる人もいませんから、最初から周りの人とうまくコミュニケーションできるかどうか不安でいっぱいでした。しかし、皆さんは笑顔でその心配をなくしてくれました。ここで私は LIM、TSI、TSA、TSB、TCBS、XLD、MLCB など培養基の作り方を学び、腸炎ビブリオ菌、コレラ菌、大腸菌、カンピロバクター菌、レジオネラ菌の検定の仕方や関係病原菌の検査技術をマスターしました。この過程で私は PCR、電気泳動、DNA 精製、DNA シークエンシングなど多くの技術も学びました。同時にカルバペネム耐性腸内細菌関係の薬物耐性研究にも参加し、インテグロンの薬物耐性研究にも触れました。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、グラム陰性菌による感染



実験中の張研修員

には遺伝子解析が重要ですが、これらの研究は私の仕事に役に立ちました。研究期間中、私は山水、川水と海水のサンプル収集活動にもかかわり、富山県立中央病院の臨床検査科も見学しました。これら活動の参加を通して、日本の病気予防コントロール対策について新たな認識ができました。研修の最終段階では、衛生研究所ウィルス部で 2 週間研修し、急性灰白髄炎と流行性脳炎について初歩的な理解ができました。この過程で私は微量中和試験による血清学的検査、ウィルス細胞継代、ウィルス分離、同定など技術も学びました。

4. 帰国後、母国での研修の生かし方

富山県衛生研究所での 4 カ月は、私は細菌部でいろんな知識を学ぶことができました。例えば LIM、TSI、TSA、TSB、TCBS、XLD、MLCB などの作り方、各種病原菌サルモネラ、大腸菌、コレラ菌、腸炎ビブリオ菌、レジオネラ菌などの検定の仕方、さらに水と食べ物から病原菌を調べ出す方法も学びました。残念ながら、私は中国の病院において、研修した一部の知識は病院での仕事に生かすことができないことも現実です。しかし、これら検査の技術は共通しており、例えば PCR、電気泳動、DNA シークエンシング等を生かすことができると思います。綿引部長も私と直接話し、特別に病院での仕事で使えるような研修内容をアレンジして下さいました。カルバペネム耐性腸内細菌関係の薬物耐性研究に初

症の治療において最も重要な抗菌薬であるメロペナムなどのカルバペネム系抗菌薬および広域 β -ラクタム剤に対して耐性を示す大腸菌や肺炎桿菌などの腸内細菌科細菌による感染症の総称です。CRE は主に感染防御機能の低下した患者や外科手術後の患者、抗菌薬を長期にわたって使用している患者に感染症を起こし、しばしば、医療関連感染の原因となります。WHO は、今後各国が取り組むべき重要課題の一つとして、耐性菌サーベイランスの強化をあげています。CRE はその中で最も注意すべき耐性菌に位置づけられています。日本でも、中国でも、いくつかの医療機関において CRE 感染症のアウトブレイクが報告されています。CRE のうち蔓延が危惧されているのは、カルバペネム分解酵素を産生する腸内細菌科細菌です。このような菌はカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌と呼び、CRE との鑑別が重要となっています。鑑別

めから最後まで参加することによって、細菌の薬物耐性のメカニズムについて知ることができました。今後の仕事で関係する研究を進めていく上で、非常に参考になると思います。研修の過程で、研究所にある先進的な器材や試薬なども見ました。また、よい仕事の習慣も身につけました。例えば月曜日の朝会で、みなさんは今週の仕事計画を発表し、仕事で他人の協力が必要な場合についても説明し、皆で仕事をやり遂げます。先進的な器材や試薬も仕事をする上で非常に便利で、効果もあります。

研修期間中、私は富山県立中央病院の臨床検査科にも見学に行きました。微生物実験室、臨床検査室、化学実験室と血液センターなど、私は注意深く器材や自動ラインまた冷蔵庫を確認し、患者さんの検査後サンプルの保存及び廃棄の仕方、院内感染の防ぎ方について質問をしました。私の働いている病院は器材面や検査項目の面において富山県立病院と大きな差はありませんが、器材の自動化や仕事の細かい部分及び全体的設計において、やはり差があります。帰国後に上司に報告し、改善し、はやく自分の病院でも使えるようにしたいと思います。

5. 研修を終えて、富山のみなさんに伝えたいこと

時間が経つのが早いもので、6ヶ月の月日はあっという間に過ぎてしまいました。この半年の中で、私は日本人の真面目な態度に感動し、自分がこの6ヶ月間で収穫できたものの大きさに嬉しく思います。この6カ月の中、私は沢山の勉強をただけではなく、日本でさまざまな体験もしました。ここでクレア、富山県庁、とやま国際センター、富山県衛生研究所、私の担当山下さんと横窪さん、研修担当の綿引さんと滝澤さん、ホームステイで受け入れてくださった倉嶋さん、他に私を助けてくれたすべての人に感謝したいと思います。皆さんのおかげで、初めて来日し日本語もうまくできなかった私は6ヶ月の貴重な時間を過ごすことができました。この経験は私の人生の宝物になりました。遼寧省は富山県と友好提携をしており、帰国後、この半年の体験を多くの人に伝え、もっと多くの人たちに富山を知ってもらい、さらに多くの人々が富山県に来るようにしたいと思います。2つの県（省）の架け橋になるために最大限の力を尽くしたいです。

末筆ながら、再び私を助けて下さった皆様に心より感謝を申し上げます。また縁があつて皆様と再会する日を楽しみにしております。



研修中に30歳を迎えた

「日本語教育を学んで」

氏名	回 智光
出身国	中国
受入自治体	富山県
研修先	富山情報ビジネス専門学校



1 来日前に期待していたこと

わたしは 2015 年度自治体職員協力交流研修員として、中国の遼寧省鞍山市から来日しました。富山県は中国の遼寧省と友好県省を結んでいるため、今回、自治体職員協力交流研修員として富山県射水市の富山情報ビジネス専門学校で約 5 ヶ月の研修を受けることになりました。今回の研修では、特に外国人への日本語教育研修に関心を持っています。わたしの出身地の遼寧省は大学が多く、日本語を勉強する学生がとても多いです。そのため、日本に留学したいと希望する人が多いです。わたしは鞍山市鞍山師範大学に勤めており、教師として学生たちに日本語を教えることがあります。その時よく困るのは学生たちが外来語を使わず、漢字ばかり使おうとすることです。漢字ばかり使うと、どうしても硬い感じがします。例えば、ガラス、パソコンなど、外来語は日本人の生活に欠かせないものなので、大切だということを、何とかして学生にうまく伝えられないかと試行錯誤していました。そんなとき、今回の研修の機会を得ることができました。この研修を通して、外来語の重要性をより実感できるに違いないと思いました。

2 研修の概要

＜全体研修＞

全国市町村国際文化研修所（JIAM）での全体研修では、お昼は文法を中心に学習しました。夜は学習した語彙、文法をしっかりと理解し、どんな場面で使用するか考えながら宿題をします。また、日本の地方自治体の財政の問題、地方創生の問題と日本の文化芸能についても勉強しました。そして日本での自治体研修において必要なシーンに即した滑らかな発音を身につけ、日本人と仕事をしていく上で感じるであろうコミュニケーションギャップをうまく乗り越えられるように言語だけでなく日本人のものの考え方、捉え方を理解しました。

また、自治体国際化協会の皆様と一緒に滋賀や京都へ行く機会もあり、金閣寺、清水寺、彦根城、近江日野商人町などを見学しました。日本の歴史と文化を理解が深まりました。

全体研修の最後には、日本語研修終了発表報告書と作文を作成しました。グループに分かれての発表だったのですが、坂下先生のおかげで、私たちのグループは第 1 位の成績を取ることができました。本当に充実した 1 ヶ月間を過ごしました。

＜富山県での専門研修＞

全体研修の後、富山県射水市にある富山情報ビジネス専門学校での日本語教育分野の専門研修が始まりました。新しい環境に入って、とても緊張しましたが、私の研修先である日本語学科の先生方が親切にしてくださったので、徐々に研修に集中することができるようになりました。

研修担当者の折田先生は私の期待する研修内容を緻密に考えて、プランを作ってくれま

した。研修では午前中は、学生たちへ授業を行うとき、先生のアシスタントをすることが多かった。午後は、学生たちによる掃除などをチェックし、その後、折田先生と決めたテーマを中心に自由研究、研修日誌を作成し提出します。

学生たちは、世界6カ国の留学生と地域に住む日本在住外国人の方々です。特に留学生は日本の大学に進学するため、毎日4時間以上日本語の授業を受ける一方、生活費を稼ぐためにアルバイトをするなど必死に頑張っています。私は中国人生徒たちの相談役という仕事もさせていただきました。短い間でしたが色々有難うございました。

私の自由研究のテーマは社会言語でした。折田先生からもらった社会言語に関する専門書物を読んでもみると、かなり難しいと思いました。難しい本を見れば見るほど難しいです。その時から自分がどれくらい無知であるか自覚しました。それからたくさん社会言語に関する本を読んで毎日、一生懸命勉強していました。日々の専門研修を続けると、研究視野がだんだん広がっていきました。わからないことがあるときは、いつでも折田先生、四谷先生、蔣先生、三国先生に教えていただくことができ、感謝しています。

8月9日から11日には東京国立オリンピック記念総合センターの「日本語学校教育研究大会」を見学しました。今年度の日本語学校教育研究大会は「新しい日本語学校教育の質のかたち」をテーマに据え日本語教職員の資質向上を図ることを目的として開催されていました。留学生の受け入れ状況の変化にどう対応するべきか講義があり、入学選考、教育指導、在籍管理などのたくさんの分野の講座を見学しました。それから分科会の間、参加者のみなさんは非常に活発にさまざまな活発な意見を交換しました。日本語教育機関だけではなく、生涯教育など、たくさんの分野の方々が情報交換をしました。



富山祭りに参加

3 帰国後の展望

今回、私は自治体職員協力交流事業の研修員として来日することとなりました。短い間ですが、世界の様々な国にできた友人、語学力の向上、海外の暮らしに適応する自信など、富山情報ビジネス専門学校での研修経験と経歴は私にとって宝物です。

帰国後は、修得した知識を活かし、中国の教育制度の向上に貢献するとともに、この貴重な機会を生かし、日本地方自治体で活用されている知識と技術を習得し、富山情報ビジネス専門学校で集めた新しい教科書や教え方の資料と日本の学校で見学したり体験したりした多く活動方法を鞍山師範大学の教員に報告し、大学の同僚と共有したいと思います。そして、講座などを通し専門研修で教えてもらったことと身につけた知識をより多くの鞍山師範大学の大学生に伝え、日本語教師たちと意見交換を行うつもりです。教育の改善に役立つように協力したいです。少しでも役立てていきたいと思っています。

さらに、日本の学校で見学したり体験したりした多くの活動を鞍山師範大学の学長に報告します。例えば避難訓練の必要性、地域安全見守り隊の活動内容と役割、学習発表会で感じた教職員の感想などです。そして学園祭などの活動は、中国から来た私には意外で、

感心しました。この体験を通じて、日本の方達とのふれあいの場を広げ、国際的なネットワークをつくり、日本文化と日本社会に対する理解を深める一方、中国の伝統文化や経済社会の様子などを日本の留学生に紹介し、双方の相互理解のためのお手伝いをしたいと考えております。

4 おわりに

いろいろな驚きや感動も体験できた富山生活は終わってしまいましたが、鞍山への帰国は富山との決別を意味する訳ではありません。むしろ、帰ったら小さなことでも、中国と日本並びに鞍山と富山の友好交流の一助となれば幸せです。

最後に、中国では「時は金なり」と言い、時間はお金では買えないので、その時を大事にしろという言葉がありますが、私にとっては富山にいるこの1分1秒を大事にする必要がありました。

それは富山で、いろいろな人との出会いと交流や、様々な場所で景色を楽しんだり、文化に触れて感動したり、もっと言葉では言い表せない事がたくさんあるからです。これらの過ぎてしまった時間は、絶対にお金では買えないのです。特に、人と人が知り合いになり、一緒に同じ時間を過ごすという事は、国籍は関係ありません。

多くの良い友人に巡りあい、楽しい時間を過ごせた事が最大の私の財産です。次は、私が鞍山に遊びに来てくれた日本の友人とたくさん交流して、楽しい思い出を作ってもらふ番です。

鞍山にも「楽しい、美しい、美味しい」がたくさんあります！日本からの観光には最適ではないかと思えます！

是非！鞍山へ旅行に来て下さい！！



立山への視察旅行に参加

「日本の教育を学んで」

氏名 岡野 アンドレ 良法
出身国 ブラジル連邦共和国
受入自治体 富山県
研修先 高岡市立野村小学校



1 来日前に期待していたこと

日系人として、いつも日本に興味をもっていました。ですから、子供のとき、日本に行きたいという望みがありました。

大学に入り、教授法の科目の勉強が進むにつれて、その望みが膨らみました。その理由は、日本の教育に興味をもったからです。日本の教育は世界的によいと私はいつも聞いていて、日本教育に対する興味と疑問をもちました。日本の学校ではどんな勉強があるのだろうか。日本の先生方はどんな教え方をしているのだろうか。どんなカリキュラムがあるのだろうかと関心をもっていました。でもあの時、日本に行く以外は、どこでこの質問の答えがつけられるかどうか分かりませんでした。それに、平仮名と片仮名しか知らない私に何ができるだろうかと考えていました。

しかし、家族、友達とブラジルの学校の先生方の応援があったので、不安でも、飛行機に乗る経験がなくても、一人暮らしの生活がなくても、研修先で役に立つかどうかの心配事があっても、自分の仕事をもっとよくするために、研修に応募することにしました。

2 研修について

<全体研修>

JIAM（全国市町村国際文化研修所）に行く前に、17日から20日まで4日間、東京研修をしました。日本の生活に関するオリエンテーション、受入自治体との面談、日本語レベルチェック（筆記テストと面接試験）、総務省国際室による講話と浅草寺・東京ソラマチの見学がありました。東京研修の最後の日に、滋賀県唐津市にある JIAM へ移動する為、新幹線のぞみに乗ることができました。期待していなかった機会で、少し驚いて嬉しかったです。

5月20日から6月18日まで1か月間、日本語研修として、私は他の29人の研修員と共に JIAM で暮らすことになり、午前9時から午後5時まで日本語の勉強をしました。

日本語レベルチェックのため、私たちは6つのクラスに分けられ、私は他の3人の研修員と一緒に、星クラスという中級コースの教室に入りました。

4人の先生の指導で文法と読解を勉強したり、漢字テストや宿題をしました。少し忙しかったですが、必要で重要な勉強でした。

この研修は日本語の勉強があっただけではなく、日本文化講義、茶道等の日本伝統文化講義や行政課題講義もありました。それに、日本の文化・歴史のスタディツアー（京都市内と滋賀県）と京都防災センターの見学もしました。

6月16日に JIAM ホールで成果発表会を行い、プロジェクトワークとして、私のクラスは環境問題のテーマを選択して、「減らそう！世界のごみ」の題名で、各国のごみの分別に関する話を発表しました。この発表のおかげで、星クラスは第二位の認証をもらいました。

日本語研修のおかげで、様々な国の研修員の交流をすることができました。韓国人、中国人、ペルー人、ミャンマー人、モンゴル人とベトナム人たちと出会えて、よかったです。

<専門研修>

6月18日、私はもう一人の研修員と共に高岡駅に到着してから、とやま国際センターの山下さんと県庁の国際課の横窪さんと会い、緊張しながら挨拶しました。そして、お二人にアパートまで案内していただきました。そのアパートで、日常生活についてオリエンテーションがありました。

6月24日に研修が始まりました。

野村小学校には外国人の子供が32人います。ほとんどブラジル人ですが、中国人やフィリピン人もいます。その中で、日本語があまり分からない子供は学校で授業の説明がうまく理解できなかったり、練習や宿題などがうまくできなかったりして、別のクラスで勉強することがあります。そのクラスは、日本語指導教室といいます。私は野村小学校の日本語指導教室で、国語と算数をブラジル人の子供にポルトガル語あるいは日本語で教えました。担当の佐伯先生の指導でワークシートや教科書、ドリルやカード（漢字カード、動詞カードや単語カード等）を使い、科目を教えました。書き取り、読み書き練習や図書室から借りた本の音読練習・読解練習もありました。

また時々、学校の科目を、特に国語と算数を、ちゃんと理解するために、日本語指導教室だけでなく外国人と日本人と一緒に授業を受けている教室に入り、指導することも必要でした。その他、特別な授業や学校のイベント等を観察することもできました。例えば、特別な授業として、4年生のそろばんの授業の見学があり、たくさん勉強しました。

イベントでは、10月25日の学習発表会の行事を見て、そのような発表は今まで見たことがなかったので、とても素晴らしかったです。先生方の指導で子供たちは上手に発表しました。

それ以外の時間には、私は学校の職員室でレポートを書いたり、日本語指導授業での練習を添削したり、ブラジル人の保護者に連絡したりしていました。

子供達が夏休みの際は、家庭訪問の機会があって、外国人相談員の赤沢先生と共に4つの家族を訪問し、日本での生活、家での勉強や帰国に関する話をしました。国際センター、国際課と南米協会のおかげで、私は様々な体験や機会を過ごすことができました。例えば、涙が出るほど感動した富山市の花火大会；富山祭りでのおわら踊り、あまりよくない天気でしたが少し登ることができた立山の研修、いろいろな観察や体験があった防災訓練、優しいご家族と出会え



母国について発表する岡野研修員

たホームステイの機会、おわら風のお盆の見学、研修員と高校生が交流した国際塾。それに、東京で、南米協会の橘事務局長さんと一緒に第56回海外日系人大会に参加して、ブラジルや他の国の日系人と出会えて、よかったです。



海外日系人大会に参加

3 帰国後、母国での研修の生かし方

この研修機会で、いろいろな教授法を学ぶことができたので、ブラジルに帰国してから、まずは、研修で学んだことをブラジルの学校の先生方に教えたいです。もちろん、先生方にだけではなく、生徒達にも日本での経験の話をしたいです。それに、野村小学校の研修のおかげで、アイデアをたくさん集めました。このアイデアは母国の学校の現実に合わせて、応用するつもりです。そして、日本で学んだことを、自分の授業で活用したいです。

サンパウロ州の教育省と結んだ契約のとおり、教育のプロジェクトを立てて、学校で応用しなければなりません。プロジェクトのテーマはまだ決めていませんが、日本の文化に関するテーマにするかもしれません。

それに、日本語の教師になる夢を実現するために、ブラジルに帰っても日本語の勉強を続けることにしました。

4 研修を終えて、富山のみなさんに伝えたいこと

私の感謝は言葉だけで表すことができませんが、書いてみました。

JIAMでの研修、野村小学校での研修は全部最高で完璧な研修でした。この研修の機会を私に与えてくださった皆様（野村小学校の山崎校長先生、野崎教頭先生、天野教頭先生、佐伯先生、若井先生、赤沢先生と他の先生方；とやま国際センターの山下さん、中井次長、中村さん、コニコさん、柿谷さん、広瀬さんと他のスタッフの方；国際課の横窪さん、ジョアンさんと他のスタッフの方；富山県南米協会の橘さんと北村さん；CLAIRのスタッフの浅野さん、高田さん、前田さん、西村さん、リさん、荒木さんと小勝負さん；JIAMのスタッフの皆様；アークアカデミーの先生方）に心から深く感謝いたします。特に、親切に支えてくださった山下さん、横窪さんとジョアンさんです。JIAMで日本語を私に教えた高岡先生に、「色々なものを教えてくださって、応援してくれて、ありがとうございます」と伝えたいです。

富山県高岡市に住んで、光栄で、楽しくて、良かったです。

この研修の思い出が忘れられません。皆様、本当にありがとうございます。

平成 27 年度自治体職員協力交流事業を実施して

自治体名：富山県
研修員名：①回 智光
派遣元自治体：中華人民共和国
研修分野：日本語教育
研修期間：6 か月
主な研修先：富山情報ビジネス専門学校

研修員名：②張 肖冰
派遣元自治体：中華人民共和国
研修分野：微生物検査
研修期間：6 か月
主な研修先：富山県衛生研究所

研修員名：③岡野 アンドレ 良法
派遣元自治体：ブラジル
研修分野：教育
研修期間：6 か月
主な研修先：高岡市立野村小学校

1 背景・目的

本県では、県の総合計画「新・元気とやま創造計画」に「グローバル社会における地域づくり・人づくり」を掲げ、海外からの技術研修員を積極的に受け入れている。これまで、南米諸国、友好提携先等、その他開発途上国に対する技術協力事業の一環として技術研修員を受け入れ、さまざまな分野の技術移転により母国の経済開発に貢献しうる人材を養成するとともに、研修員と県民とのふれあいを通じて国際親善に寄与してきた。

現在本県では、4つの海外自治体と友好提携を結び、交流を行っているが、このうち、中国遼寧省とは昭和 59 年に友好県省を締結し、本年で 27 周年を迎えた。これまで、人的交流のほか、経済や環境など幅広い分野で交流が行われており、昭和 58 年からは海外技術研修員受入事業を実施し、平成 9 年からは本事業による協力交流研修員として遼寧省政府職員を受け入れているところである。

また、ブラジルサンパウロ州とは、昭和 60 年に友好提携協定締結以来、人的交流、文化交流など幅広い交流を行っており、昭和 61 年から、母国発展を担う人材育成のため、研修員を受け入れている。本県では、県内の外国人住民の増加や定住化に伴い、外国人にも日本人にも暮らしやすい温もりのある地域づくりを目指し取り組みを進めているところであるが、富山県内の小中学校では、日系ブラジル人をはじめとする多くの外国籍児童が、日本の小学校で言葉や文化の違いに戸惑い、悩みを抱えているという現状があり、多文化共生に配慮した教育環境の整備が課題となっているところである。

このため富山県では、平成 21 年度より、ブラジルサンパウロ州から教育経験のある人材を受け入れ、ブラジル人児童が多い小学校で、ポルトガル語やブラジル文化に配慮した学習支援を実施するとともに、外国籍児童の保護者に対して日本の教育制度等の理解促進に努めることを目的とした「多文化共生推進研修員受入事業」を実施している。

2 研修内容

(回研修員)

授業のサポート・言語学の研究、日本語教授法の習得

(張研修員)

水や食品の細菌検査・遺伝子検査法の習得

(岡野研修員)

日本の教育制度の理解、外国籍児童への学習支援、家庭訪問への同行

3 事業実施にあたって工夫、苦労したこと

(回研修員)

専門研修開始当初は、本人の想像していた研修環境と異なっていたために、不安を感じていたようであったが、徐々に研修環境にも慣れ、研修にのめりこんでいった様子である。

また、気さくな性格で、積極的にコミュニケーションをとっていたこともあり、研修受入先職員や学生達との関係も良好で、充実した研修生活をおくっていた。

特に、毎日、言語学に関する自由研究、研究日誌の作成が求められたが、多くの課題を課されたことで、熱心に研修に取り組むことができて充実していたようである。8 月には東京で開催された「日本語学校教育研究大会」に参加させていただき、本人にとって得がたい経験ができたようである。

(張研修員)

研修開始時の日本語能力は、円滑な研修遂行に不安を覚えるものであったが、研修担当者にお気遣いいただき、さらに、本人の真面目な性格もあったので、研修では特に問題は起きなかった。また、研修受入先の職員に、中国の食べ物や文化などを紹介したことで、職員方との関係も深まったようである。

研修の一環で富山県立中央病院へ訪問する機会を与えていただいたが、先進の設備を見学したことが本人にとって貴重な経験となったようである。

(岡野研修員)

来日時は日本語能力に若干の不安があったが、JIAM での全体研修を経て日本語能力は十分に上達し、また、研修に対する意欲も十分であったので、研修に対して不安は感じられなかった。

研修受入先の高岡市立野村小学校では外国人生徒に対して、算数や国語の指導補助をしたが、本国では数学教師として勤めている本人にとって、日本の算

数教授法に触れたことは得がたい経験になったようである。

また、野村小学校の夏休み期間中には、地域の教育ボランティアの活動や在住外国人向けの生活相談の活動に積極的に参加しており、本人の研修意欲の高さが窺えた。

研修を終えて、日本語教師になりたいという本人の思いがさらに強くなったとのことで、研修は充実した経験だったようである。

4 成果・課題

今年度の研修員は、張研修員を除き日常的な日本語能力は十分であったが、それぞれが、専門研修受入先において日本語の難しさに苦しんでいたようである。しかし、研修員の研修意欲が非常に高かったため、受入先との人間関係も円滑に構築することができ、高い研修効果をあげることができた。また、地域の行事にも積極的に参加し、県民との交流を通じて友好親善にも大いに貢献した。研修員には、帰国時に「とやま名誉友好大使」を委嘱したところであり、帰国後は、本県で習得した技術を活かして活躍するとともに、本県と各省州との友好交流の架け橋としての役割を果たしてもらえるよう願っている。

中国遼寧省及びブラジルサンパウロ州は、富山県にとって人的交流にとどまらず、経済、観光、環境等の各分野における本県の重要なカウンターパートであり、今後ますます関係は強いものになると感じている。過去に協力交流研修員として来県した方で、帰国後、各分野で本県との交流の中心人物として活躍されている方は多く、今年度の3名の研修員も、今後、本県との橋渡し役として活躍してくれるものと期待している。

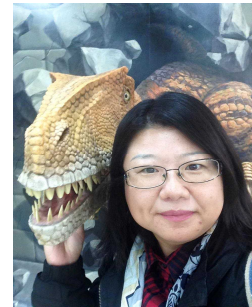


立山への視察旅行

平成 27 年度『自治体職員協力交流事業報告書』

学ぼう！日本の行政！

受入自治体 福井県 福井市
名 前 金 静 延
出 身 国 大韓民国
研 修 先 福井市役所
期 間 2015. 6. 18 ~ 現在



1. 本事業に応募した動機

公務員として各国別の推進する行政業務の違いを知りたかったです。特に、我が国で大変に推進されることが他の国ではどのように処理されるかと思い、韓国といろんな面で似ている日本の先進行政について知りたいために、今回の事業に応募するようになりました。

2. 研修の概要

1) 基本的な情報を学ぶ（福井生活体験）

本格的な研修に先立ち、福井生活の適応を助けるため福井の色々な所を訪問、体験しました。

防災関係施設、美術館、公民館、歴史博物館など施設の見学と季節別で行われる祭りに参加しました。

この中でも特に祭りは韓国と違って住民自らがお祭りを進めている点がとても驚きました。住民自らがお祭りを開催したため、参加率も高いのは当然のことであるようです。特に暑い真夏にもかかわらず、皆が街頭に出て踊ってお祭りをする姿は最初は理解できなかったが、踊りを踊っている全ての人たちの笑う姿を見て、この暑い夏をかんしゃくがない趣で楽しんでいるなという考えをするようになりました。

この他にも福井の伝統料理を作ったり、曹洞宗大本山 永平寺での座禅体験、福井リレーマラソンなどの体験を通じ、福井生活に適應することができました。

		
福井フィニクス祭り	おつくね祭り	防災センタ訪問

2) 専門研修

福井市役所での研修は様々な部署に訪問して部署の事業について 学びました。

韓国と比べて似ていることも違うこともありましたが一番私がびっくりしたことは街づくりの事です。韓国は今街づくりの事業が市が中心になって実施しています。それを市民自分でするため色々な方法を探していますが容易ではありません。

でも、日本は昔からまちづくりの事業が市民自分でしているので真の意味のまちづくりが行われるようです。補助金事業も祭りも市民の必要によって実施されるために予算の浪費も少なく、市民参加率も高いようです。特に祭りの時、すべての市民と一緒に踊りを踊る姿は、これまで日本人たちは静かで消極的であるはずだった私の考えを変えてしまいました。

また、福井市の専門研修の中で印象的だったのは文化課での研修でした。

文化課での研修は文化振興と文化財保護の関するのものです。

文化財保護の関するは埋蔵文化財から発掘文化財までどのように管理されて活用されるかについて学びました。

福井では 50 年前から埋蔵文化財地図を作製して文化財管理をしてきているが、埋蔵文化財地図とは、福井で文化財が埋蔵されていそうな所を標準調査を通じて表示しておいたんです。そして建物を建てたり道路を作る工事があればその時から指導を確認して埋蔵文化財があるところで工事が施行されるものならその埋蔵文化財を発掘して別々に保存しています。その他のものはそのまますることが文化財保存のために最善と思ってるようです。

以外にも福井には一乗谷朝倉遺跡地と養浩館という重要国家の文化財があり、これを通じて日本の歴史も学んで日本人たちがどれだけ古いものを大切にするのかも学ぶ貴重な機会となりました。

		
展示された埋蔵遺物	現場の埋蔵遺物	発見された埋蔵遺物

3. 研修の後

今回の研修は日本について多くのことを見て学ぶことができた意味深い時間でした。生活の中での日本を会うことは新たな経験でした。外国人としての恐怖で始まった日本生活だが、人として生きていくことはどこでも大差がないことを悟った。特に日本は他国に比べて生じた姿や生活方式など、韓国と似ている点が多い。しかし、似ているようでありながらも他の面も多く学ぶこともたくさんありました。前に言及したまちづくりとか遺跡を大切にする心などは学ぶべき点として、帰国後、このような良い点を水原市の行政に適用させることができるようにすることが私の宿題だと思います。

平成27年度水原市派遣職員^{きむじょんよん}金 静 延氏の研修にあたって

自治体名 福井県福井市

研修員名 ^{きむ}金 ^{じょんよん}静 延

出身国 大韓民国

研修分野 一般研修

研修期間 12ヶ月

主な研修先 市民生活部まちづくり・国際課ほか

1. 事業の背景・目的

福井市は、平成13年（2001年）に韓国水原（スウォン）市と友好都市締結を行い、行政視察団の受入れ、市内中学生で構成される「ジュニア大使」の派遣・受入、児童・生徒の美術作品交換展示などを通じて、交流を図ってきました。平成23年（2011年）には友好都市締結10周年を迎え、両市の相互の信頼関係の強化および友好都市関係の発展に寄与する人材育成として、平成24年度（2012年）より市職員相互派遣事業を開始しました。

2. 事業の概要

福井市役所の各部署で所管する事業や市の現状に関する研修を実施し、福井市の行政運営について理解を深めるとともに、まちづくり・国際課所管の異文化理解に関する事業に参加することで、福井市の国際化を図りました。

【取り組み概要】

- ・福井市各部署での研修（通年 ヶ所）
- ・標識看板等の韓国語翻訳および通訳補助（通年）
- ・福井市職員対象の外国語講座（12月）
- ・小学校での韓国文化教室（10月）
- ・まちづくりイベントへの協力・参加（10月）
- ・ホームビジット（市民と一緒に休日を過ごす事業）への参加（10月）
- ・市民国際交流団体への協力・参加（通年）
- ・水原市との青少年交流の補助（2月）
- ・水原市に派遣される職員への語学研修（4月）

3. 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

6月から7月は日本語の習得に重点を置きました。ふくい市民国際交流協会に依頼し、日本語学習ボランティアに週3回の語学研修を実施しました。本人の学習意欲が高いこともあり、順調に日本語を習得しました。8月以降も研修の合間に日本語学習

を続け、12月の日本語能力試験では2級を受験するまでに語学力を伸ばしました。日本語能力は、研修を受ける上で基礎となるため、できるだけ早く習得することが、研修員の研修および生活で重要であると感じております。

8月には、市郷土歴史博物館や美術館、消防局など本市の文化や歴史を学んだり、生活する上で必要となる知識を得るための研修を実施しました。昨年度と同様に、8月にアメリカ姉妹都市から招聘した福井市国際文化交流大使（FCA）も研修に同行することで、同時期に外国人として生活を始める仲間と親睦を深めることができました。

9月から11月にかけては、本市の財政、教育制度、公営企業など市政の基本となる分野について研修を行いました。担当部署に研修員が伺い1時間程度の座学、および現地視察などを行いました。研修員の専門外の話が多い場合は、関連する韓国の時事を入れながら話をして質問しやすい雰囲気を作ったり、研修の後に韓国語を交えて研修内容の復習を行ったりして、理解を促しました。

1月から2月にかけては、専門研修として文化財保護関係の部署や、福祉保健関係部署を回りました。文化財関係部署では、一乗谷朝倉氏遺跡管理事務所、文化財保護センター、おさごえ民家園の3箇所を回りました。

また、研修以外には本市の異文化理解活動にも積極的に協力いただきました。

10月には、本市社南小学校の6年生を対象に、韓国の文化や食に関する授業を行い、その後児童と交流しながら給食をとる「給食交流事業」を実施しました。授業では、水原市に交流職員として派遣されていた福井市職員と一緒に韓国の若者文化や、食文化、韓国語講座を行ったのですが、授業の後に児童から多数の質問が寄せられるなど、好評を得ました。近年、市内小学校においても、異文化理解や外国語教育に力を入れておりますが、欧米の文化を中心に学んでいるため、アジアの異文化を学ぶ貴重な機会になったと感じています。

授業の準備にあたって、韓国と日本の文化の違いを調べたり、発表内容に関して元派遣職員と話し合いを行うことで、日本文化や福井について理解を深めることができましたと感じています。今後も一方的に研修を受けるだけでなく、発信する側になれるような機会を活用し、理解を深めたいと思います。

12月には、福井市職員の希望者を対象に、職員研修として韓国語講座を行いました。講座では、10月の小学校での経験を生かし、冗談を交えながら落ち着いて説明ができました。この事業を通じ、韓国に興味のある職員とのつながりも増やすことができました。

市民との交流も積極的に行っていました。市民と一緒に休日を過ごす「ホームビジット事業」では、市民と交流しながら紙漉きや華道の展示を見学しました。交流を行

ったホストファミリーとは、事業終了後もたびたび研修員と出掛けており、本市市民とのつながりを作ることができました。

4. 成果・課題

研修において、研修員が積極的に話をできるような環境づくりが必要であると感じました。日本語能力がある程度身についたとしても、研修で職員と積極的に話ができるようになるには、日本語で話す「慣れ」が必要であると感じました。あらかじめ、研修員から研修の前に韓国や水原市での取り組みについて話を聞いておき、研修中に付き添いの職員からその内容を伝えるなどして、言いやすい環境づくりが必要であると感じました。

休日になると県外の観光地を訪問したり、書道を学ぶなど、日本文化への強い興味関心を持っていました。また、些細なことではありますが、職場の懇親会に出席したり、積極的にコミュニケーションをとっていました。



小学校訪問（社南小学校）



座額での研修（企業局経営管理課）



東大寺での県外研修



そば打ち体験（ごっつおさん亭）

山梨県での研修を振り返って

氏 名 ギレルメ・パグリャラ・ラジェ
出身国 ブラジル連邦共和国
受入自治体 山梨県
研修先 観光部国際交流課



1 はじめに

1973年7月にミナスジェライス州と山梨県が姉妹締結を行ってから、42年間の友好交流をおこなってきました。私は2015年の自治体職員協力交流事業（LGOTP）の研修員として2015年5月17日に来日し、CLAIRのスタッフから歓迎されました。最初の3日間は東京で研修し、新幹線で滋賀県に移動しました。日本の鉄道システムと新幹線は、旅行をするにはとても快適なものであり、鉄道システムを体験できて面白かったです。ブラジルには、このような快適な高速鉄道はありません。

2 研修の概要

(1) JIAMでの研修

滋賀県のJIAM（全国市町村国際文化研修所）で日本語を勉強しました。月曜日から金曜日まで午前と午後のクラスに出席しました。来日したときは全く日本語がわかりませんでした。私は、ここで日本語を知って、そのほかにも日本の歴史や現代社会を始め、他の教科も勉強することができました。この時間は非常に有意義なものでした。

勉強以外にも様々な活動をしました。私はお茶会に参加して、滋賀県の家族と一日をとものに過ごしました。国際交流や行政学等の講義もありました。これらは素晴らしい経験でした。CLAIRとJIAMのスタッフに感謝いたします。

今回、私は友達との良い思い出がたくさんできました。私は、JIAMのような、ミナスジェライス州内の地方公務員の訓練機関のアイデアを考えたいと思います。地方レベルの公務員を訓練するための恒久的な機関を持つことは重要です。



LGOTP 研修員のみんなで撮りました



茶会に参加しました

(2) 山梨県での専門研修

山梨県では国際交流センターで暮らしました。一人暮らしでしたが、他の海外研修員たちも一緒に住んでいましたので、孤独を感じることはありませんでした。食事をしたり、日本語を練習したり、一緒に笑ったり、いつも誰かがいます。同じ場所で色々な国からの人々と生活した経験は、とても満足のいくものでした。



国際交流センターでの歓迎会

行政制度、政策、インフラストラクチャを調べました。インターネットやクレアの文書や国際交流課にある資料などを使用しました。また、公共交通機関の部門と土木工学の部門についてインタビューを行いました。

私の主な研修目的は、ブラジル政府と日本の地方行政のシステムを比較することでした。ブラジルと日本とで、開発途上国に固有のもの、地方分権についての制度の違いと管理の違いなどがありますが、地方行政のシステムは、いくつかの類似点を持っています。まず、公共政策の法的根拠は似ています。私は日本での契約管理の典型的な仕組みを勉強しました。ミナスジェライス州の行政学の典型事例に当てはめてみました。公告と入札準備のための方法論は似ています。違いは、管理および契約相手方への支払方法です。

公共輸送システムに関連して非常に多くの相違点があります。私は、ブラジルにそのまま適用できるような主要な共有点を見つけることはできませんでした。日本のシステムの利点は、都市や大都市圏などの主要都市への鉄道輸送が発達していることです。ブラジルでは、バスが鉄道より発達しており、多くの乗客が利用しています。

12 月には、道路建設・維持管理を現場で行っている出先機関を訪問し、道路課長にインタビューをしました。訪問の日程は次のとおりです。

- 峡東建設事務所
- 国道411号（大常木2号トンネル）
- 国道411号（上萩原BP）
- 藤垚石和線（笛吹スマートICアクセス）、笛吹市八代町南
- 鶯宿上曽根線（金刀比羅橋補修）、笛吹市境川町藤垚

スタッフはとても親切でした。午前中にトンネルの建設現場を見ました。地域の道路インフラの計画の背後にある理論的根拠についても伺うことができました。現場は、既にイ

ンフラは整っている場所でしたが、今回の建設工事の主な焦点は、山梨県の幹線道路のユーザーの安全性を高めることにあります。ミナスジェライス州でも都市部では十分なインフラがありますが、すごく大きい州ですからまだインフラストラクチャを拡張する必要があります。

山梨県のシステムについて学ぶことができましたが、地理的なサイズが非常に異なります。このため、道路計画もまったく異なるものでした。



建設工事現場の視察

高速道路や県道を接続する交差点の建設現場も紹介していただきましたが、この建設工事においては、**3**つの異なる公共機関によって管理される**3**つの別契約がありました。市町村、県および国の政府は、それぞれ独立した工事契約を結んでいました。

ブラジルでは異なります。ブラジルの場合は公共団体間で合意を図っています。**1**つの公的機関だけで作業を行います。ただし、コストが共有されます。

高速道路と一般道路との間の交通を制御するために **ETC** という通行料のスマート徴収システムがあります。このシステムは、ミナスジェライス州の道路で広く使用されていませんが、新しい割引高速道路で実装を始める予定です。

橋上の作業現場訪問は非常に有益なものでした。安定性と耐震性に加えて橋の耐久性を確保するための技術を知ることができて非常に面白かったです。

姉妹都市の情報

都道府県	旗	最大都市	地方	人口	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)	市町村 数	州道・県道 (km)	州道・県道、国道 (km)
山梨県		甲府市	中部	840,139	4,465	188	27	1.840	2.099
ミナスジェライス		ベロオリゾンテ	ブラジル 南東部	20,869,101	586,500	35,58	853	20.876	29.594

また、日本の地方行政の日常的な仕事の仕方について学べたことが面白かったです。国際交流課の職員と、外国からの訪問者の対応を手伝ったり、外国人に山梨県の魅力を紹介するプロモーションイベントに参加したりしました。これはとても良かったです。サントリーの蒸留所やワイナリーなど山梨のたくさんのスポットを訪問しました。

3 日本での生活

私は日本に来てすぐ、日本の人々や都市や自然の美しさに驚かされました。多くの場所に行きたかったので、休日には山梨県と日本の各地に行きました。

私は、西沢渓谷のきれいな滝、北岳山の素敵な景色、富士山の素晴らしいエネルギーに惹かれました。山梨県の親切な人々やおいしい食べ物、新鮮な果物、自然などを楽しむことができました。これらは、私が自ら経験することが重要でした。

また、私は東京に感動し、本州の色々な所へ行って、沖縄の海岸で泳いで、北海道の紅葉をみました。

私は日本で学んだことを絶対に忘れません。日本とブラジルはとても違う国です。しかし、時間の経過とともに日本は私にあっていて感じました。規律と責任感は、この社会に根付いています。これらの特徴は、世界に誇る日本を作り上げるのに貢献しました。



山中湖



清里

4 終わりに

何十年も日本に住んでいても、この国の文化を本当に理解するのには十分ではないです。日本に住んでいたのは、わずか8か月でしたが、私はブラジルに日本の多くのことを伝えていきたいと思います。特に、ミナスジェライス州と山梨の間の友好関係に貢献します。山梨県と国際交流課にこの機会を与えてくださったことを感謝しています。またお会いできる日をたのしみにしています。

ミナスジェライス州との交流事業の柱として

自治体名 山梨県
研修員名 ギレルメ・パグリャラ・ラジェ
出身国 ブラジル連邦共和国
研修分野 一般行政
研修期間 8か月
研修先 観光部国際交流課

1 背景・目的

姉妹友好地域から将来有望な職員を迎え、日本の先進技術を習得して母国の発展に寄与してもらうとともに、姉妹友好地域との関係強化及び本県の国際交流活動に参加して地域の国際化や多文化共生の推進に寄与してもらうことが狙いである。山梨県の姉妹友好地域のひとつであるブラジル・ミナスジェライス州と姉妹締結40周年記念式典で交わした関係強化の協力協定に基づき、同州政府の職員を受け入れることとした。

ギレルメさんは、ミナスジェライス州政府の土木部で公共政策に従事していた。彼は、日本とブラジルの政策決定の違い、日本人の精神に強い関心をもっていた。

2 研修の概要

ひとつは専門に関する公共交通及び公共事業に関する研修を行った。事前に文献調査を行い、その後、担当職員へのインタビュー調査及び現場視察を行った。英語の資料が少なく、当初は日本語もままならないなか、一つひとつ言葉を調べながら理解を進めていた。日本の制度のうち自国で活かせるものはないか、という問題意識を常に持ちながら、制度の比較研究に重点を置いていた。

もうひとつは、海外来県者の随行・アテンド業務を手伝ってもらった。ポルトガル語はもちろん、英語が堪能であったため、外国からのファムトリップや交流訪問団の視察に同行してもらい、コミュニケーション等をサポートしてもらった。彼は、誰に対しても人見知りをせず、何事に対しても好奇心旺盛であったため、海外からの客人ともすぐに打ち解けていた。日本人以上におもてなしの精神に長けており、その姿勢は大変見習うべきところがあった。

さらに、業務の合間を縫って、ポルトガル語での情報発信なども手伝ってもらった。



海外来県者アテンド時の様子（於：ブドウ農園）

常に笑顔でおもてなしをしていた

3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

これまでも本事業では、研修員とのコミュニケーションに苦労してきたが、ギレルメさんは、日本語の発音や抑揚の理解が優れており、早い時期に日本語での日常会話ができていた。また、日本の文化・習慣・食事にもすぐに親しんでおり、これらの点での苦労はあまりなかった。

一方で、専門分野に関するコミュニケーションは難しく、研修の調整やインタビューにあたっては、言語・用語の両方を理解する必要があった。語学のわかる職員に協力してもらい行ったが、研修員本人にも意図が十分に伝わらないもどかしさがあったようで、知識・技能を持つ職員が直接コミュニケーションのとれることの重要性を痛感した。

4 成果・課題

これまで数年にわたるミナスジェライス州からの職員の受け入れにより、同州との姉妹交流は単発的なものから継続的かつ強固なものへと変わりつつある。

一方で、前述のとおり、本県の場合、外国語によるコミュニケーションができる職員が少ないことが課題として浮き彫りとなっている。また、本県にとっては、知識・技能の伝達は、できる限り、一方的ではなく相互的であることが望ましい。

こうした課題に対処するため、今後、同州の意向のみならず、本県のニーズ及び受入体制をより明確にして研修員の選定を行い、より相互的かつ継続的な技術交流につながることを企図して本事業を活用したい。

松江での研修生活

名 前： 薛 俏宇
出 身 国： 中華人民共和国
受入自治体： 島根県松江市
研 修 先： 松江市役所 産業観光部国際観光課



1 本事業に応募した動機

中国と日本は一衣帯水の友好隣国です。2015 年は吉林市と松江市が友好都市提携を結んでから 16 年が経過し、日本で研修ができることはとても貴重な体験であり、光栄なことです。今回の研修で両市の更なる友好交流、そして両国の友情に少しでも貢献できればと思いました。

2 研修の概要

(1) 全体研修

5 月 17 日に東京に来て、自治体国際化協会の皆様に温かく迎えていただきました。その後、総務省による日本語能力試験と日本文化研修を受けて、東京の観光スポットを巡って、日本文化への理解が深まりました。これからの日本での生活に少しでも役に立てるようにしていただきました。

5 月 20 日、滋賀の JIAM 全国市町村国際文化研修所に行きました。日本語の先生の指導で日本語が上達してきて、世界各地から



《JIAM での集合写真》

らの友達も作れました。みんな一緒に勉強したり、食事したり、各自の見聞を分かち合ったりして、忘れがたい一か月を過ごしました。茶道の研修で、有名な茶道の先生の話が聞けて、茶道と和敬清寂の文化が分かりました。滋賀近江東の森さんのお宅のホームステイで、近距離で本場日本人の生活に触れ合えました。京都防災センターでは、各災害場面を体験して、とくに地震と台風が印象深かったです。適切に対応すれば、損害を最小限にすることができることを知りました。

一か月間の集中研修の最後に、学んだことと感じたことを発表して、研修にピリオドを打ちました。別れる日には、日本での研修生活が愉快で充実になれるように、お互いに祝福しました。

(2) 専門研修

6 月 18 日、ようやく松江市に到着しました。自然と調和してできている街だという、第一印象でした。松浦正敬市長に表敬した時、松江での生活を楽

しんでくださいと励ましていただきました。そして、国際観光課での研修生活の幕が開けました。運がいいことに、松江城が正式に国宝に指定された日（7月8日）に登閣ができました。お城に対する松江市民の気持ちがわかって、一緒に喜びを感じました。



《松浦市長を表敬》

①一般行政研修（日中交流事業）

1999年に吉林市と松江市が友好都市を提携してから、密に交流が続けています。今年8月に吉林市卓球交流団を迎えて、両市の中学生が卓球分野で競技して、お互いに切磋して、卓球技術と文化の交流ができました。

また、インバウンドの仕事も行いました。隣県の鳥取県境港市に近年大型クルーズ船が寄港しています。私も由志園（日本庭園）で中国からのクルーズ船の観光客の対応を行い、漬けものなど沢山の特産品をPRして販売しました。と同時に、日本庭園の美しさを目にすることができました。

市民の方が中国寧夏回族自治区銀川市へ訪問する前には、事前説明会に参加しました。仕事に対して緻密な計画を立てて、全面的に準備を整えるやり方がとても勉強になりました。

銀川市人民政府の職員が農業・林業研修員として来松された際には、視察アテンドを行いました。日本の庭園と農業について、より深い理解を得ることができました。干し柿の生産過程の見学では、日本のこだわりと伝承文化が感じられました。

②国際文化交流

国際交流員と一緒に公民館で地元の方々と中国の食文化をテーマに交流を行いました。ワンタンやトマト料理を一緒に作ったり、食べたりしました。小学校への派遣では、漢服を着て中国の文化を紹介しました。子供たちは真剣に話に耳を傾け、日本人の情熱と小学生たちの自立性を感じました。

また、国際交流会館で市民向けの中国講座を行いました。中国の買物文化の中で、中国と比べながら自分が見た日本のショッピング文化を紹介しました。



《小学校で中国文化を紹介》

③人事研修

職務配分、業務評定、職員研修、人材育成、給与査定などについて、人事課の職員の方に日本の人事制度を紹介していただき、私の質疑にも丁寧に答えてくださいました。吉林市の人事制度も紹介して、交流をしました。両国の人事制度のシステムは違う部分もありますが、似ているところもたくさんありました。

④水産研修

水産振興課の研修では、一か月前後の真鯛稚魚 6 万匹の放流や、保育所の子供たちによるヒラメの放流を一緒に行いました。海洋の生物バランスを保つために、水産振興課が行った大きな努力を見ました。人工漁礁調査作業で、漁業の大変さと喜びを一緒に分かち合いました。捕った魚を効率よく分類して、箱詰めして、運送することによって、一番いい鮮度で人々に送っています。この研修でいろんな魚の名前を覚えることができました。



《水産振興課の皆さんと》

⑤保健センター研修

松江保健センターで、保健師の仕事内容、松江市の妊娠データ、妊婦の検診とワクチン接種、児童のワクチン接種と保健などを勉強しました。三歳児の検診、子育て支援センター、発達教育支援センターエスコなども見学し、松江市は子供たちを大切にしていることが分かりました。

⑥その他の研修

水燈路の準備では、行灯を設置しました。

また、休日には国際観光課の皆さんや国際交流員の皆さんと海上綱引き大会に参加して、各国の友達と団結して試合に臨みましたが、結果は一回戦敗退でした。しかし、バーベキューをしたり、皆で海に入って泳いだりとても楽しい時間を過ごすことができました。

天神祭では、みんなで掛け声を合わせながら神輿を担いで、日本の祭りを体験しました。また、夏踊りでは、地元の友達が作れて楽しい時間を過ごしました。

松江歴史館と小泉八雲記念館を見学して、松江の歴史についてより深い理解ができました。

松江フォーゲルパークで、はじめてモデルになって撮影され、パンフレットにも載せられました。かわいいお花、ペンギンと鳥たちは忘れがたいです。



《フォーゲルパークの観光パンフレットのモデルになる》

3 帰国後の展望

自治体国際化協会と松江市役所の皆様のおかげで、半年間の研修生活が無事幕を閉じました。この間にお世話になった方々に感謝を致します。松江についての理解を深めることができ、松江のことが好きになりました。これからも松江を更に多くの人に紹介したいと思います。日本人の仕事に対する勤勉な態度、協力を大事にする集団精神、時代と共に勉強する姿など、私にとって見習わないといけないところが沢山ありました。帰国しても自分の仕事と生活に活用したいと思います。今後、中国と日本の交流が更に盛んに行われること、吉林市と松江市の友情が更に深まっていくことを望んでいます。

「 協力交流研修員を受け入れて 」

自治体名	島根県松江市
研修員名	薛 俏宇
出身国	中華人民共和国
研修分野	行政一般
研修期間	6 か月
主な研修先	産業観光部 国際観光課



1 背景・目的

松江市と中華人民共和国吉林省吉林市とは、1999 年 11 月に友好都市提携を提携して以来、文化交流をはじめ青少年スポーツ交流など幅広い分野での交流を行ってきた。

2001 年からは自治体職員協力交流事業を活用して、吉林市外事弁公室より職員を研修員として受け入れ、友好都市間の更なる交流促進と市職員の国際感覚の向上など、本市の国際化推進を図ってきたところである。2011 年の受け入れを最後に中断していたが、2014 年に松江市長が友好都市提携 15 周年を機に吉林市を訪問した際、吉林市より研修員の受け入れを再開して欲しいとの要望を受け、2015 年度に研修員の受け入れを再開したところである。

2 研修の概要

研修期間：平成 27 年 6 月 19 日から平成 27 年 11 月 19 日まで

- ・大型クルーズ船寄港時の特産品販売
- ・吉林市中学生卓球交流団来松時のアテンド
- ・市民向け講座「中国の爆買」
- ・松江市の人事、研修、給与制度、福利厚生など
- ・松江水燈路準備
- ・稚魚の放流、漁場調査など
- ・農業現場視察研修
- ・乳幼児健診視察
- ・国際交流員と公民館、学校訪問



《法被を着て特産品の販売をする研修員》

3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

研修員は JIAM での日本語研修の受講後も日本語能力が十分でなかったため、当初、専門研修の開始にはコミュニケーションについて心配する面もあったが、研修開始後は本人の努力と中国の国際交流員のサポートもあり、日本語で話すことにも慣れ、問題なくコミュニケーションを取れるようになっていった。

研修では、行政一般であったこともあり、国際交流やインバウンドを中

心に研修員が希望する内容の行政研修が行えるよう計画したところである。研修員が母国で担当する人事関係の研修では特に興味があったようで、松江市と母国との制度の違い、特に休暇制度について関心が高かった。また、研修中は、国際交流員と一緒に派遣先へ出かけ市民との交流も積極的に行ってもらった。研修後半では、市民向け講座において、日本語での講座を行うなど、日本語能力が向上しており廻りの職員を驚かせた。

また、生活面においても国際交流員と近くのアパートに住んでもらうことにより、日常のサポートを行うとともに、休日には職員や他国の交流員と一緒に様々なイベントに参加するなど研修以外の面でもコミュニケーションを図った。



《職員や CIR と参加した海上綱引き大会》

4 成果・課題

研修員は、本市での実務研修により日本（松江市）の行政制度について理解を深めることができた。母国では人事、研修担当ということもあり、特に人事制度（給与、研修、休暇など）については感心が高く、松江市の制度と母国の制度との違いについて、双方が意見交換でき松江市の人事担当職員においても有意義な研修であった。

また、研修員が松江市滞在中に見たものや感じた事、松江市の魅力を日々微信（SNS）を活用して、母国の友人、知人へ紹介してもらった。今後、彼女の発信した情報を目にした知人、友人が松江市を訪れる（インバウンド）ことを期待するものである。

帰国後も、研修員は吉林市と本市との間の友好交流のキーパーソンの 1 人となって幅広くご活躍されることを心から願っている。

「 2015 年 L G O T P 報告書 」

氏 名	朱 敏嬌
出 身 国	中華人民共和国
受入自治体	長崎県長崎市
研 修 先	長崎市役所国際課



1 はじめに

2015 年 5 月 17 日から 11 月 17 日まで私は日本総務省の自治体職員協力交流事業（LGOTP）の研修員の一員として 6 か月間の研修を行った。

そもそもの応募動機は、日本の先進的な教育理念と取組を理解し中山市教育の発展のため参考とすること、日本の民族文化を理解し自分の視野を広げ民族間の誤解による紛争を減らすこと、交流の懸け橋を構築し中山市と長崎市の教育分野での協力と交流を推進することの 3 つであった。自分にとって日本は 10 年前に観光で来ただけで、まったく知らない国であり、ほかの印象は文学作品、新聞ニュースで見たものであり、私にとって今回の機会は大事なものであった。私の研修報告は下記で総括する。

2 研修の概要

（1）平和

歴史的な原因で、長崎市民は第二次世界大戦の痛みを経験し、長崎は「戦争を反対し、平和を迫る」都市の先頭に立ち、平和教育も長崎市政府の市民教育の中の重要な内容である。私は長崎平和教育の現場である原爆資料館、原爆死没者追悼平和祈念館、浦上天主堂、城山小学校、永井隆記念館等を見学した。中国と日本の歴史的関係は緊密ながら気まずく、両国の関係は親近ながらも複雑なものであった。私も戦争を経験していないので、日本に来る前までは長崎がどれくらい戦争の苦痛を受けていたか知ることができなかった。しかし、長崎に来て、被爆体験者の話を聞き、また戦争の写真や遺跡を見学し、それに中国人民が第二次世界大戦で受けた苦痛を思い出し、戦争が起きたら被害になるのは双方の一般国民であることを確信した。文明社会での国と国の関係は戦争をなくし問題を解決すべきである。

（2）都市文化見学

中山市と長崎市は市民友好都市である。孫文と梅屋庄吉の深い友誼の縁で両市の交流が深まっていた。長崎は日本の鎖国時代に唯一の対外開放港となっていた輝かしい歴史を持っている。ちょうどその時期に長崎は世界の大国強国と直接交流する機会があった。出島、長崎歴史文化博物館、グラバー園、軍艦島、孫文・梅屋庄吉ミュージアム、孔子廟等の見学を通じ、「和魂洋才」の意味を深く認識することができた。中国でも民族資本主義を刺激する「洋

務運動」があったが、「明治維新」のように成功しなかった。その社会文化背景、教育土台、実施過程についてよく研究分析する価値がある。

（３）教育行政

夏休みの期間中に教育委員会学校教育課と教育研究所で研修を行い、長崎市の教育管理状況と両部門の仕事の内容について理解することができた。教育研究所は私が所属している教育教学研究室と似ている教育研究部門であるが、仕事の内容は大きく違うところがあった。教育研究所の仕事の重点は特別支援生徒と ICT 活用と普及であるが、私が所属している部門は教師の教学力と学生の学力を高めることに重点を置いている。私は長崎市の特別支援学生のキャンプに一部参加して、長崎市政府と教育部門はこれほど大きな人と物および予算を義務教育に投入し、だれでも教育を得る権利と教育を受ける義務を十分に遂行していることに深く感動した。

（４）環境

日本の環境保護は世界でも有名なものである。資源がそれほど豊富ではないともいえる島国で廃棄物を宝物に変える事業が持続可能な発展をサポートするものだ。環境政策課の職員と様々な事業に参加し、先進的な技術はもちろん環境保護事業の前提であるが、市民の高度な資源リサイクル意識こそキーポイントであることを認識した。中国では大勢の環境清潔作業員を投入して掃除等を行っているが、その背後には国民の環境保護意識の弱さが見えてくる。日本の森林被覆率は 67%であることは、有利な環境計画と保護によって地理的不利を補えることができることを説明する。

（５）国際

私は至近距離で長崎市の外交交流の仕事について理解する機会があった。国際課にて「被爆 70 周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」、国際理解講座、クルーズ受け入れ作業等に参加した。

長崎はその面積と人口は中山より規模が小さいが、世界各地と接する機会是非常に多い。また、長崎市は若者により国際的な視野を持たせることを目的として、国際課は

国際理解宣伝と教育の仕事を担当している。特に外国人に日本のいろんな体験講座を開催すると同時に、多くの外国人を招き、日本の子供に世界各地を紹介する活動を開催し、歓迎されていた。私も日本の茶道、着物体験、花道等体験活動に参加した。また、精霊流しや長崎くんち等の民間活動にも参加した。日本の文化は「融合しながら併存する」というもので、中国、ヨーロッパ、アメリカの文化は日本に大きく影響している。民族文化と外来文化の融



＜絵本の読み聞かせ＞

合は文化大繁栄の局面として表れ、持続可能な発展と国民素質の向上に文化的動力を提供している。

（6）学校

今回の研修の主な部分は長崎市の小中学校、授業、学生と先生に近づき体験するものである。この半年で主に小学校1か所、中学校4か所、商業高校1か所をメインとして研修を行い、授業見学や学生たちに中国と中山市を紹介する講座を行った。私は主に桜馬場中学校で、1年3組の副担任として研修を行った。私の日本語は上手ではなかったので、学校の先生と生徒はみんなよく理解してくれた。私は常に生徒と両国は風土人情および学校と生活状況について交流を行った。学校での研修は一番収穫が多かったものである。私は両国および両市の教育について比較分析し、多くのものを得た。



＜左：部活（茶道）体験 右：学校での講座＞

3 おわりに

平和と発展は相互理解と包容に基づいたもので、認識と理解がなければ、そのほかを語ることができないし、発展ももちろんできない。長崎に来てから、より日本を知ることができ、日本にいる間に一部先生と生徒の中国に対する偏った認識も少し変えることができた。帰国してからも私は自分が見たもの思ったものを講座と会話を行い、一部中国人の日本に対する偏った不完全な認識を変えたいと思う。

この事業で得たことを活かすために、次のことを実施予定である。

1. 研修で勉強した内容を講座資料として整理し、中山市の先生と生徒と共有する。すでに1回目の講座を完成し、3月初には2回実施予定。
2. 日本の教科書と中国の教科書を比較し、比較分析報告書をまとめる。
3. 両市の教師教学力と学生の学力状況を分析し、分析報告書をまとめる。

今回の研修のチャンスをくれた日本政府、長崎市政府、国際課、教育委員会に感謝の気持ちを申し上げます。私は引き続き、両市の友好交流のため努力します。

「長崎市と中山市の交流促進」

自治体名	長崎市
研修員名	朱 敏嬌
出身国	中華人民共和国
研修分野	教育、環境、国際、平和、観光
研修期間	6ヶ月
主な研修先	長崎市内小中学校、環境政策課、他

1 背景・目的

長崎市は市の最上位計画である第四次総合計画において「個性輝く世界都市」を将来の都市像として掲げ、「世界とつながるまち」となるような施策展開を行っている。長崎市は世界の6都市と姉妹（友好）都市提携を結んでいるほか、近年では姉妹都市提携等の形式にとらわれず、市民や民間交流団体が主体となって自由、気軽な交流を行う市民友好都市の提携を推進しており、これまで4都市と提携している。「世界とつながるまち」を実現するため姉妹（友好）都市や市民友好都市とのネットワーク形成に取り組んでいる。

そこで、平成25年度からは姉妹都市等から研修員を招聘し、研修員が今後の長崎市との関係において「交流のキーパーソン」となることを目的としてこの事業を行っており、平成27年度は、平成23年度の市民友好都市提携以来交流が活発になった中山市から、学校交流の実現化を見据えて研修員を招聘した。

2 研修内容

研修員は中国・中山市の教育局に勤務している教学（道徳）研究員であったため、主に市内の小中学校での研修を実施した。この研修では、ある学校においては副担任に入ったり、別の学校では中国語の授業を受け持ったりと学校によって様々な役割を体験することができ、研修の充実度が高まった。

また、長崎市がどのような歴史を持つところかを深く知ってもらうために、長崎市独自の研修として平和研修を行った。これは、平和関連施設の視察や被爆体験者講話を聴くなどの学習に加え、実際の平和祈念式典で外国大使接伴班として国際課業務に携わってもらうなど実地的な研修も取り入れるようにした。

その他、クルーズ船の受入時の対応や環境政策を学ぶ研修などを行った。



＜学校での授業の様子＞

3 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

研修員は、来日時点ではほとんど日本語を理解することができず、前半の平和・環境研修等では、国際課の国際交流員が常に通訳として帯同する必要があった。また、本人も日本語能力不足によるコミュニケーションの難しさを痛感しており、研修を進めていく上で、研修をする側もされる側も一番苦労したことであった。

しかし、本人が積極的に長崎市国際ボランティアにより実施している日本語講座に通うほか、自宅でも熱心に日本語学習に取り組んだこと、また後半の学校研修では、学校に中国語ができる教師がいたこともあり、コミュニケーションが直に取れるようになったことで理解度が増し、前半に比べより充実した研修となった。

誰かが日本語で話す度に、気になる言葉をメモに取り、声に出して復唱していたのが印象的であり、日本語能力が日々上がっていくのを実感することができた。

4 成果・課題

研修員を受け入れた一番大きな成果は、元々の受入理由の一つであった学校交流の実現化である。学校研修の拠点としていた中学校と、中国・中山市の中学校との交流の第一歩として、教師同士でスカイプを試験的に行うところまでこぎつけ、研修員が帰国した後もスムーズに学校交流が進められるよう土台を作った功績は大きいと言える。

また、研修員来崎中に、中山市の教育関係者が来崎し、前述の長崎市の中学校と中山市の中学校との今後の交流について協議書を締結したこと、長崎市の教育委員会との意見交換会の実施や学校視察を実現できたことも今後の学校交流の大きな弾みになると考えられる。

研修員自身の語学力も、中学生を対象に中山市を紹介する授業を50分間日本語で行えるまでになり、自分の言葉で自国を紹介することができたことは、研修員がいかに日本語学習に真摯に取り組んだかの結果であると言える。

しかし、研修員自身の語学力が伸びたとは言え、やはり単独で事務連絡をできるまでには至らず、研修員帰国後も国際交流員を通してのやり取りに限られてしまうという課題は残ったままである。これは今後、他の研修員を受け入れる上でも共通の課題であり、国際課職員の語学力の向上も必要である。

今回の研修員受入は、両市がより身近な存在になり、さらに交流を深めるためのきっかけである。中山市に帰国してからも、研修員が長崎市と中山市をつなぐキーパーソンとして活躍してくれることを期待するとともに、今後も長崎市からも積極的な働きかけを行っていきたい。



＜協議書提携＞

「湖北省と大分県の交流促進のため」

氏 名	陳 瑾
出 身 国	中華人民共和国
受入自治体	大分県
研 修 先	企画振興部国際政策課、大分市役所、別府市役所、(公社) ツーリズムおおいた



1 本事業に応募した動機

中国・湖北省孝感市は中国で唯一、孝の名前がつく町です。そして、中華孝文化の本場です。ここ数年間、孝感市の観光業は急速に発展して、他の国との交流もある程度の実績を積んでいます。今の孝感市は孝文化という概念を中心に、楚地文化の基に、名人文化と赤色文化を特徴として、孝感当地の民間文化を融合する孝感らしい旅行文化を努力しています。私は公務員で孝感市孝南区外事僑務観光局に勤めています。孝感市孝南区外事僑務観光局は、簡潔に述べると、「孝南区の国際交流の促進と観光の振興発展を計画・実施する部署」です。私が担当する仕事は観光事業の計画立案、外国代表団の接待等です。孝感市孝南区は観光資源に恵まれ、観光事業の振興に積極的に取り組んでいるところですが、観光施設の整備や、観光客の誘致、観光客に快適な旅行を楽しんでもらうノウハウなどは不十分なところがあります。

大分県は世界に有名な温泉の観光名所で、観光施設の整備や、観光企画、観光客をもてなすノウハウなどが優れています。今回、湖北省と大分県の人的交流の促進の一環として訪日チャンスがあると聞き、研修への参加を希望しました。また、大分県の観光分野における先進的な経験とやり方などを学び、湖北省と大分県、省都武漢市と大分市と友好交流のために懸け橋としての役割を果たしたいと思っています。

2 研修の概要

大分県での研修は、大分県庁の国際政策課、大分市・別府市等行政機関での研修を経て、公益社団法人ツーリズムおおいたで観光誘致宣伝業務を体験させていただきました。

(1) 全体研修

5月17日に各国の研修員が東京に到着し、全体研修が始まりました。東京では、政府関係者の講演会や日本の生活のオリエンテーション、日本語能力試験の受験、面接等がありました。その後、滋賀県の JIAM（全国市町村文化研修所）で日本語研修を受けました。この一ヶ月間、日本語の勉強だけではなく、日本の文化や日本の自治体制度なども学びました。そして、琵琶湖、京都の金閣寺、防災センター、滋賀県の彦根城など名所を見学しました。一

ヶ月間の日本語勉強を通じて、私も基本的な会話能力を身につけました。

(2) 国際政策課で研修

着任後すぐ、部長にご挨拶に参りました。私は湖北省の孝感市や孝南区を説明しました。部長からは、「滞在中、県内各地を観てまわり、本県の自然風土や歴史文化を深く理解し、湖北省との懸け橋となってください」との激励の言葉をいただき、心から観光研修を頑張りたいと思いました。

研修の始めには、国際政策課で県の概要や観光情報、県産品について説明を受けました。講義のほか、県内必見の観光スポットを見学に行きました。県内の国際留学生と観光体験ツアーに出かけたり、日米草の根交流サミット大会の地域分科会に参加したりしました。

(3) 大分市役所、別府市役所で研修

県庁で研修のほか、大分市役所、別府市役所での研修を経験いたしました。

大分市役所では、武漢市内と大分市内の小学校間の国際交流や副市長表敬などに携わりました。もっと多くの交流を通じて心を開くことにより、両国の間でお互いに理解と尊重の種を育むことができるだろうと信じています。そして、大分市内の有名な観光スポットともいえる「高崎山動物園」と「うみたまご」を案内していただきました。また、大分駅の中にある大分市観光案内所で業務体験をしました。

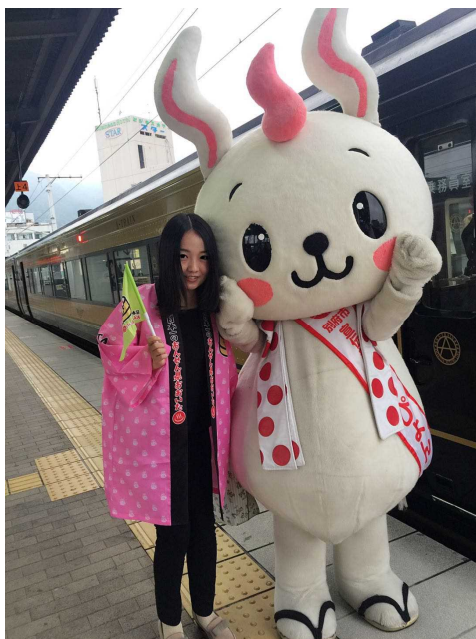
別府市役所では、観光分野でたくさん学びました。研修を始めた時に、別府市の必見スポットともいえる「地獄めぐり」を案内していただきました。湧出量・源泉数共に日本一のバラエティあふれるおんせん県おおいたは、入る温泉だけでなく、目で見て楽しめることもできます。そして、別府ロープウェイ、志高湖、九州自然動物園などを見学して、別府の自然に触れました。また、大分香り博物館、別府竹細工伝統産業会館、別府現代芸術プログラムなどの見学を通じて、別府の文化と歴史を深く理解し、別府の魅力に魅了されました。この間も、日本語教室に参加して、日本語能力がアップしました。



別府の観光地「血の池地獄」

(4) (公社) ツーリズムおおいた

私は9月から2ヶ月間、研修で県の観光協会に当たるツーリズムおおいたで観光業務を学びました。中国人観光客向けHPを翻訳したり、県の季旬観光誌「ぐるり」の着地型撮影に参加したり、ゆふいんラジオ局でラジオに出演をしたり、ガイドのスキルアップセミナー、フェリー乗り場でのパンフレット配布に回ったりして、大分県内の観光業務を体験しました。更に東京ビッグサイトで開催された「ツーリズムEXPOジャパン2015」に出展された



A列車お迎え

「温泉の旅ーおんせん県おおいた観光コース」を造成したいと考えています。また、両地域の架け橋として、そして、日中両国の友好のために努力したいと考えています。私は日本での見聞と学んだことを実際の仕事に運用して、両地域の文化、経済、観光など各方面の交流協力に貢献したいと思います。

最後になりますが、研修期間中にお世話になった皆様に深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

本県のブースで観光PRに努めました。

3 帰国後の展望

今回の研修を通じて、日本一のおんせん県の自然風土・歴史文化にすっかり魅了されました。帰国したら、周りの人たちに大分県民のあきらめない精神を伝え、より多くの人々に大分県の魅力を知ってもらいたいです。日本で修得した知識と経験を実際の仕事に活用し、孝南区の観光振興に貢献したいと思っています。主に、孝南区の観光客の誘致、観光施設の整備、観光客受け入れのソフト面での改善などに力を入れたいと考えております。そして、孝感市孝南区の旅行会社に働きかけ、



「ツーリズムEXPOジャパン 2015」
で大分県の観光PRしました

「大分県と中国湖北省との交流の懸け橋として」

自治体名	大分県
研修員名	陳 瑾
出身国	中華人民共和国
研修分野	観光
研修期間	6 ヶ月
主な研修先	国際政策課、(公社) ツーリズムおおいた、大分市、別府市

1 背景・目的

県では、急速に進む経済・社会のグローバル化に対応するため、平成 23 年 5 月に県の海外施策の取り組むべき方向性を示す羅針盤として「大分県海外戦略」を策定し、平成 27 年 10 月には、これまでの成果や策定後の経済社会情勢の変化等を踏まえ、「大分県海外戦略(2015～2018)」を新たに策定した。欧米などアジア以外の地域の様々な変化にも対応しながら、東アジア、東南アジアの活力を十分に取り込み、地域経済のさらなる活性化を目指し、各分野における海外施策を推進している。

この一環として、中国において発展の可能性が大きい華中エリアの中核的な省であり、鉄鋼、自動車産業など本県の産業構造と類似性の高い湖北省との交流を平成 23 年度に開始した。知事による湖北省公式訪問(平成 23 年度)を皮切りに、翌年度には省政治協商会議主席が来県するなど、トップの相互往来により交流が本格化した。この中で、更なる交流促進のため職員の相互派遣を実施することとなり、平成 25 年度から、自治体国際化協会「自治体職員協力交流事業」を活用して研修員を受入れている。

2 研修概要

(1) 行政機関

① 庁内研修(県国際政策課)

- ・ 県勢概要、海外戦略、県産品等の説明、観光地視察 等

② 庁外研修(大分市国際化推進室、別府市文化国際課)

- ・ 青少年国際交流業務補助、観光案内所業務体験(大分市)
- ・ 市内観光地視察(大分市、別府市)

(2) 観光関連団体

① 公益社団法人ツーリズムおおいた

- ・ 県内観光地視察、中国人観光客向け H P 作成、ツーリズム E X P O ジャパン出展業務補助 等

3 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

研修分野については、研修員の希望を踏まえ、本県の自然風土や歴史文化を深く理解することのできる「観光分野」に決定した。本県は、「別府」や「湯布院」といった国内有数の温泉観光地をはじめ、豊かな自然に育まれた山海の幸を数多く有しており、「日本一のおんせん県おおいた」のキャッチフレーズと共に戦略的なツーリズム施策を推進している。また、研修員は湖北省孝感市孝南区外事僑務観光局の職員であり、今回の研修を通じて観光PR手法やおもてなしのノウハウを身につけたいとの希望であったので、本県の観光施策への理解を深めることはもちろん、帰国後も実務に活かせるように、観光PR手法やおもてなしを学べるプログラムとなるよう配慮し、また今後の交流を見据えて多数の関係者とのネットワークを構築できるよう、県国際政策課や（公社）ツーリズムおおいた、大分市、別府市と多数の機関での研修を実施した。

4 成果・課題

今回の研修を通じて、本県の観光地や食、温泉をはじめとする自然風土・歴史文化を知ることによって大分県の大ファンになってくれた。「帰国後は、孝感市孝南区の旅行会社に働きかけ『おんせん県おおいた観光コース』を造成し、大分県の魅力をPRしていきたい。また湖北省と大分県との懸け橋として、両地域の文化、経済、観光などの交流事業に貢献したい。」との感想を述べてくれた。

来日当初は日本語でのコミュニケーションをとる事が難しく、日本語と英語での研修を行ったが、本人の努力でめきめきと上達し、研修後半にはコミュニケーションをとるのに困らない程度の日本語能力を身につけた。

また約半年間の研修により、多数の行政・観光関係者とのネットワークを築くことができ、帰国後はこれら研修の成果を十分に活かし、大分県と湖北省との交流の懸け橋として活躍いただけるものと期待している。大分県めじろん海外特派員として、今後も定期的に連絡を取り合い、両地域における最新の現地情報を交換するなど連携を図りながら、大分県と湖北省との交流を推進していく。



企画振興部長から大分県めじろん海外特派員を任命



観光パンフレットのモデルを務める

（別府地獄蒸し体験）